

平成26年度版
京都市の学校評価システム

平成25年度実施状況

——「自らを振り返り」「互いに高め合う」——

平成26年9月

京都市教育委員会

目 次

I 京都市の学校評価システム

1 京都市における学校評価の考え方	2
2 重点項目	5
3 実施状況	5
4 学校評価関係年表	19

II 学校での取組事例

1 京都市立久我の杜小学校	24
2 京都市立神川中学校	34
3 京都市立中京もえぎ幼稚園	45

I 京都市の学校評価システム

1 京都市における学校評価の考え方

本市では、学校評価を導入するにあたり、平成13年度に校長会との共同プロジェクトを立ち上げ、学校評価の試行実施を開始した。その後、2年間の議論と実践をもとにプロジェクトのまとめ「今、学校にもとめられているもの」を発行すると同時に「京都市学校評価ガイドライン」を策定し、学校と家庭・地域が、お互いが足りないところを補い合い、互いに高め合う双方向の信頼関係を築くことを目指す学校評価を平成15年度から全校で実施した。

○その後の経過

H16年	全校での評価結果の公表
H18年12月	学校運営協議会に関する専門委員会 学校評価部会の設置
H19年4月	「京都市学校評価ガイドライン（平成15年度版）」の改訂（第2版）
H19年6月	「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」の施行
H19年7月	「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」を設置 (学校運営協議会に関する専門委員会 学校評価部会を組織改正)

この間、学校評価活動を深化させながら、PDCAサイクルによる「学校評価システム」の着実な浸透を図ってきた。また、国においても、学校評価をめぐる法令の改正が行われ、「学校自己評価の実施とその公表、教育委員会への報告」が義務化されるとともに、「自己評価結果に対して保護者、地域の方々など学校関係者による評価を得ること」も努力義務化された。

こうした状況を踏まえ、平成21年6月には、次の4点を柱とした「京都市学校評価ガイドライン（第3版）」を策定し、学校評価の充実に努めている。

(1) 学校評価をみんなのものにする

各学校では、校内評価委員会を中心に全教職員が評価項目・指標、学校教育目標の具現化に向けた実践や評価結果を共有し、「自己評価」を今後の教育活動の改善に結び付けるとともに、保護者・地域の方々による「学校関係者評価」やそれらの評価結果の公表を行っている。こうした取組を通して、学校評価は、教職員はもとより、保護者・地域の方々も含めた「みんなのもの」となり、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの学校生活を「よりよいもの」とする上で、重要な役割を担っている。

(2) 当事者意識を持って評価する

評価の実施にあたって、教職員や学校関係者は学校を単なる評価対象として見るのではなく、よりよい学校づくりを進める当事者としての意識を持って評価する。特に、本市では、学校関係者評価の中で「学校の自己評価結果に対する評価」を受けることに加え、「学校改善に向けた支援策」についても明記することとしている。

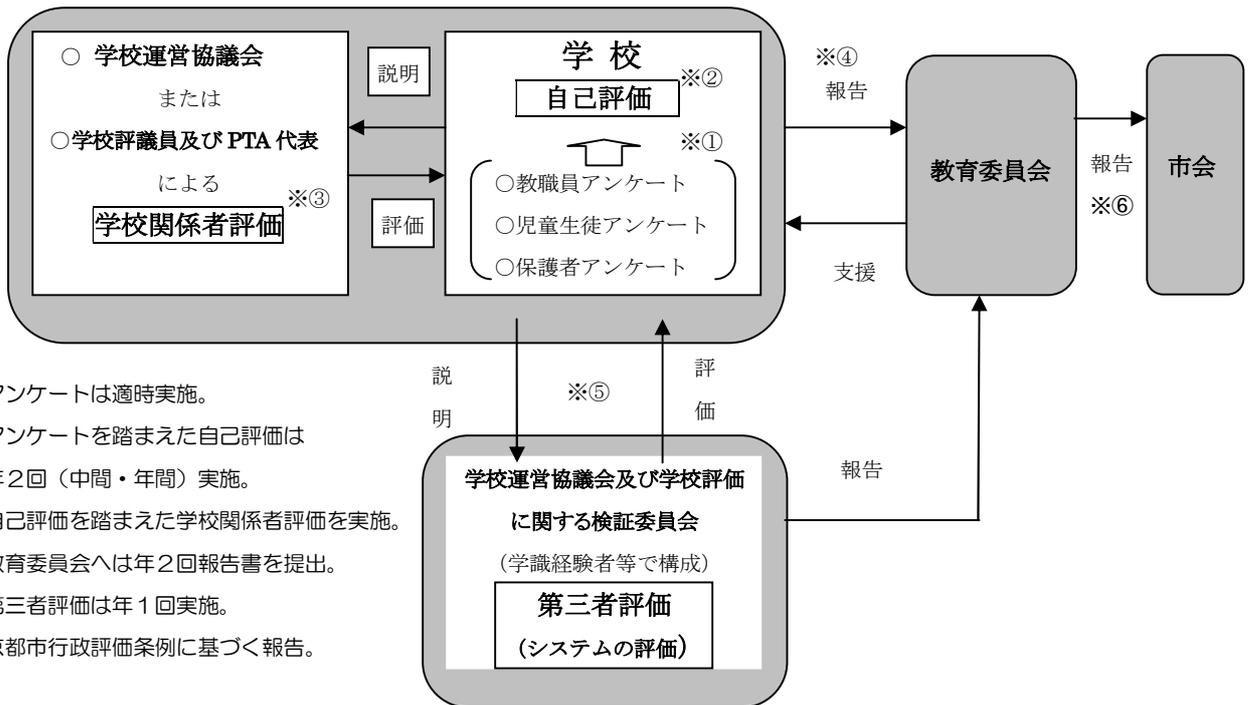
(3) 自らを振り返り、互いに高め合う

本市では、学校評価システムの導入当初から、保護者・地域等が学校を一方向的に評価するのではなく、それぞれがそれぞれの立場で自らを振り返ることを重視してきた。「教職員は自らの教育活動や指導を振り返る」「保護者は自らの子育てを振り返る」「地域は子どもへの関わりを振り返る」そして、「子どもたちは、自らの学習に向かう学びの姿勢を振り返る」など、「それぞれが自らを振り返る」という視点を持つことにより、お互いが足りないところを補い合い、互いに高め合う双方向の信頼関係の構築を目指し、取り組んできた。

(4) 学校の魅力を発見し、発信する

学校評価を実施することで学校の課題を把握し、その克服・改善に向けた取組に結びつけるためには、学校の魅力が見える評価手法を用いることが重要である。本市では、アンケート作成・集計・分析が可能な「学校評価支援システム」を活用し自校の魅力や課題が一目で分かる魅力・課題発見型（ニーズ調査型）のアンケート手法を導入している。これらの結果の概要は全ての学校のホームページで公開するとともに「学校だより」等でも積極的に情報を発信している。

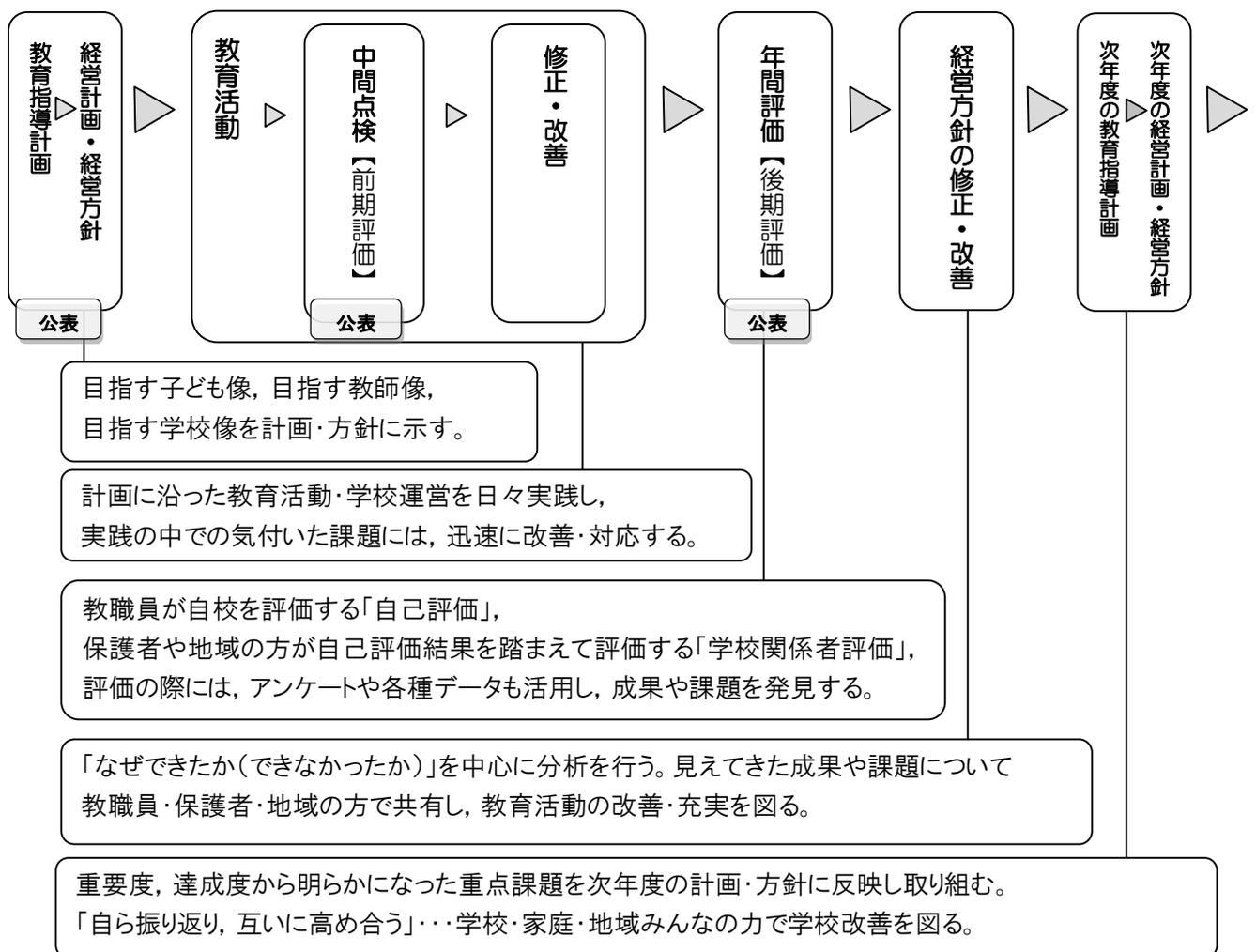
《自己評価と学校関係者評価、第三者評価のイメージ図》



- ※①アンケートは適時実施。
- ※②アンケートを踏まえた自己評価は年2回(中間・年間)実施。
- ※③自己評価を踏まえた学校関係者評価を実施。
- ※④教育委員会へは年2回報告書を提出。
- ※⑤第三者評価は年1回実施。
- ※⑥京都市行政評価条例に基づく報告。

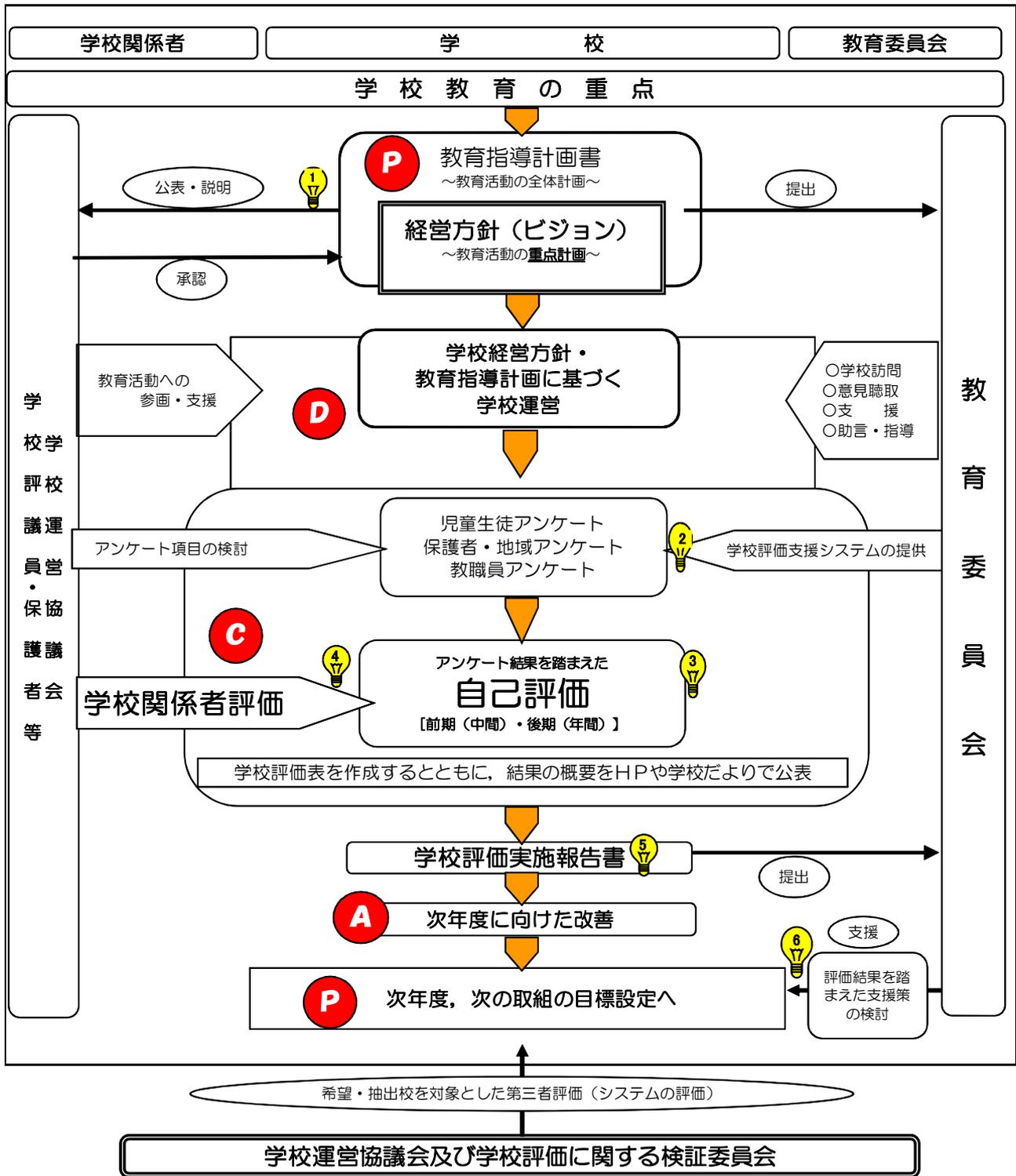
《PDCAサイクルに基づく学校評価の流れ》

願いをこめて 力を合わせて 振り返り 高め合い 次のステップへ



学校評価の推進と学校運営の改善

学校は、自己評価を基本とし、学校関係者評価を活用して、組織的・継続的に学校改善を図っていきます。



ポイント

- 1 学校経営方針，学校評価年間計画，評価項目の策定，公表
- 2 学校の魅力・課題の発見につながるアンケート手法の活用（推奨）
- 3 学校組織としての自己評価を充実させ，評価結果及び改善策を提示
- 4 自己評価結果に対する学校関係者評価の実施と，課題解決に向けた改善策や支援策の協議
- 5 評価結果の教育委員会への報告
- 6 教育委員会は学校に対する様々な支援の情報として評価結果を活用

2 重点項目

平成25年度においては、これまでの取組の上に立って、学校評価の一層の充実を目指し、以下の3点を主な取組とした。

- (1) 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」による学校訪問（第三者評価）の実施にあたり、小中連携や地域との連携による教育活動の改善・充実を図るという観点から、特に同一中学校区にある小学校・中学校を中心に訪問する。（神川中学校区の4校を含む、計8校を訪問）
- (2) 各校においてアンケート作成・集計・分析を行うための「学校評価支援システム」について、本市の新たな情報セキュリティ環境に適合し、かつ機能面でも分析結果のグラフをより見やすくする等の改善を加えた本市独自の「新・学校評価支援システム」として開発する。（平成26年6月末から運用を開始）
- (3) 各校で作成する「学校評価実施報告書」の様式について、これまで以上に各校の重点目標と評価項目、具体的な取組とその結果、分析、改善策の関係をわかりやすいものとし、目標達成や課題解決のための評価活動の流れを理解しやすい形に改善を行う。（平成26年度から様式変更）

3 実施状況

(1) 「自己評価」の実施状況

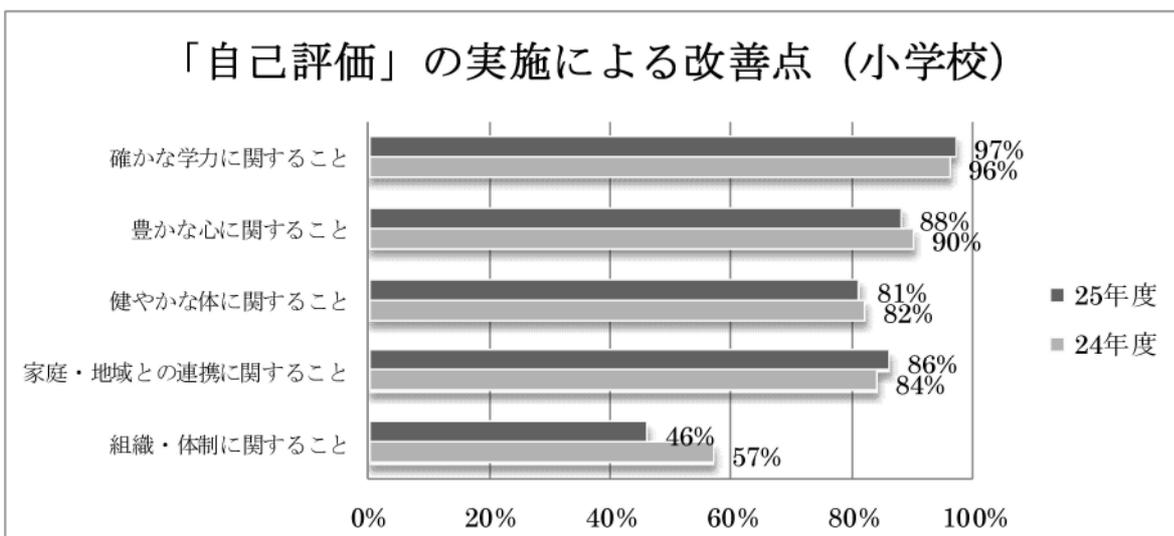
ア 実施状況

全ての小中学校で、保護者、児童・生徒によるアンケートを実施するとともに、それらをもとにした「自己評価（学校教育法施行規則第66条で平成19年から義務化）」を行った。それらの結果については、各学校において、学校評価を特集した「学校だより」やホームページ等で公表した。

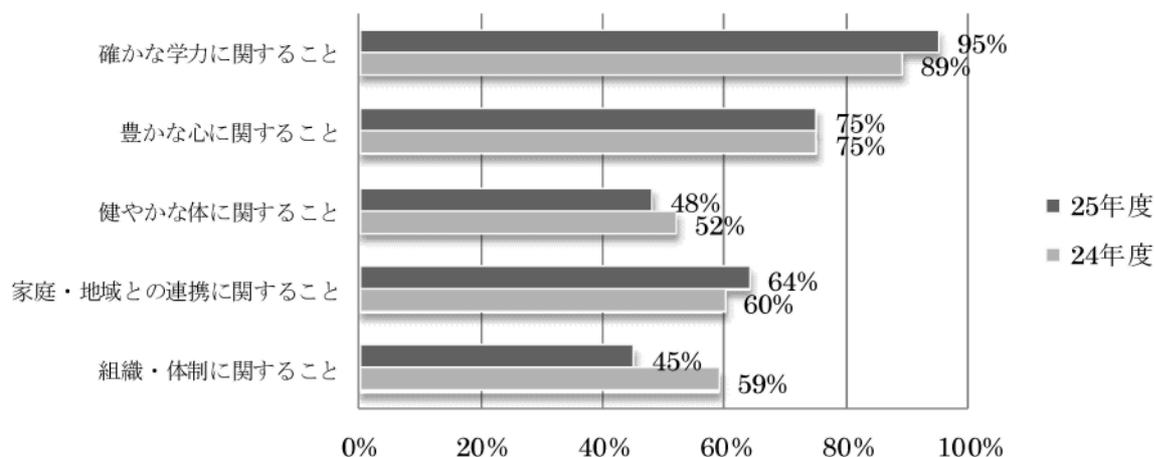
イ 「自己評価」の実施による改善点

小中学校に、「昨年度（平成25年度）実施した自己評価を、どのような点で活かそうとしましたか。」と調査したところ、以下のとおりの回答を得た（複数回答可）。

「確かな学力に関すること」が小学校は97%と引き続き高い割合となっており、中学校では平成24年度より6ポイント上昇して95%となった。これは、各校が自己評価をもとに確かな学力の定着のための取組の充実を図ろうとする意欲の表れと推測される。また、「豊かな心に関すること」については、中学校で24年度に前年度比19ポイント上昇し75%となったが、25年度も同じく75%と同水準を維持している。小学校とともに、引き続き、道德教育の充実や、規範意識の育成に取り組んでいることが伺われる。



「自己評価」の実施による改善点（中学校）



（２）「学校関係者評価」の実施状況

「学校関係者評価（学校教育法施行規則第67条で平成19年から努力義務化）」については、全ての小中学校で、「学校運営協議会」又は「学校評議員が一堂に会する場」で学校から「自己評価の結果」と「学校としての改善策」を説明したうえで、学校運営協議会委員や学校評議員から意見だけではなく支援策についても言及していただくこととしており、課題に即した支援の充実や取組の見直しが進められている。

具体的には、総合学習に関わる地域ボランティアの充実や、家庭での読書に関する意識を高めるための親子読書の取組の実施、地域行事の中で子どもが活躍する場面を増やす等、様々な面での支援の充実・改善につながっている。

[参考]学校運営協議会の設置数（平成26年3月31日時点）

小学校155校（設置率92.3%）、中学校37校（設置率50.7%）

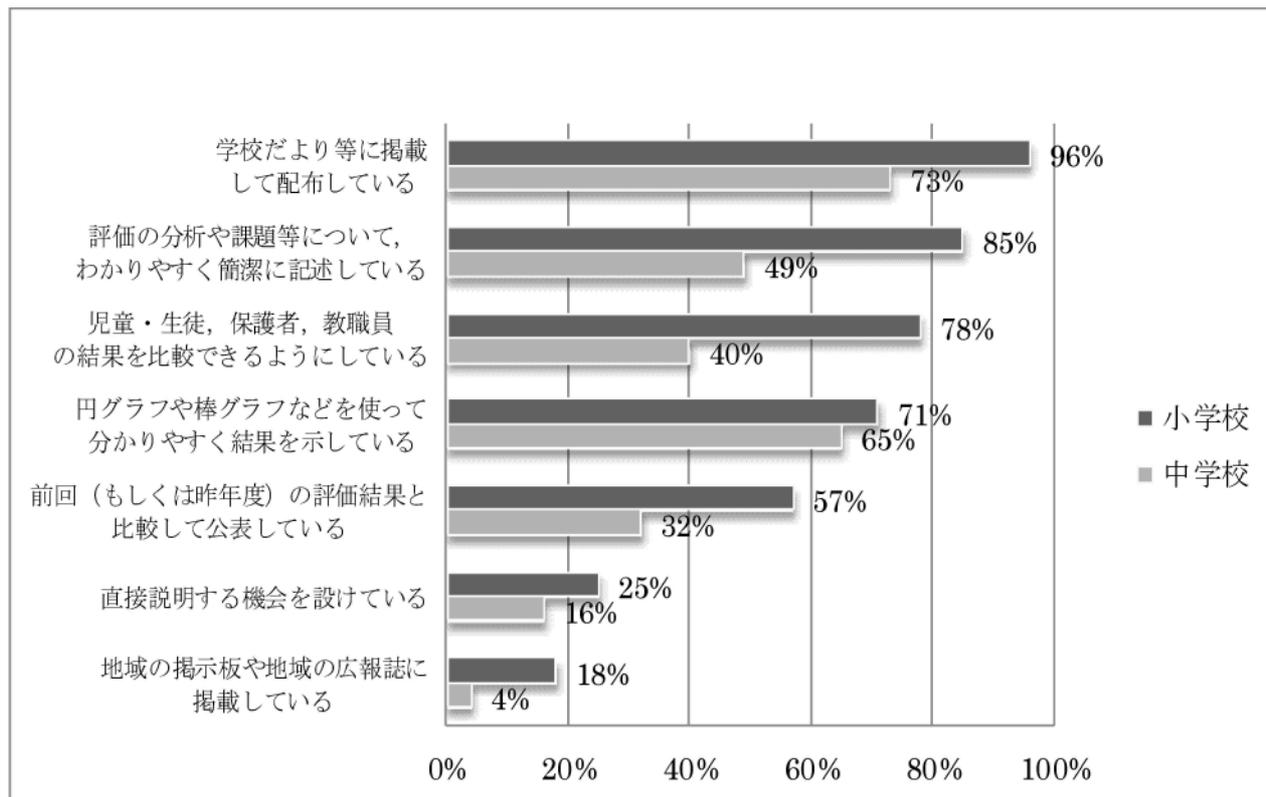
（３）学校評価の実施にあたっての工夫、課題、効果等について

小中学校に対し、「評価の公表の際に行った工夫」や「実施にあたっての課題」、「学校評価の効果」についてのアンケートを実施し、以下のとおりの回答を得た（複数回答可）。

評価結果の公表については、小学校の96%、中学校の73%の学校が学校だより等に「自己評価・学校関係者評価」の結果を掲載している。学校だより等に掲載していない学校も含め、評価結果は全校においてホームページに掲載する他、直接説明する機会を設けたり、地域の掲示板に掲載したりするなど、積極的な公表を行っている。また、多くの学校では、評価結果の分析や課題等についての説明を記載したり、グラフを使って結果を示したりする方法を用いて、分かりやすい公表に努めている。

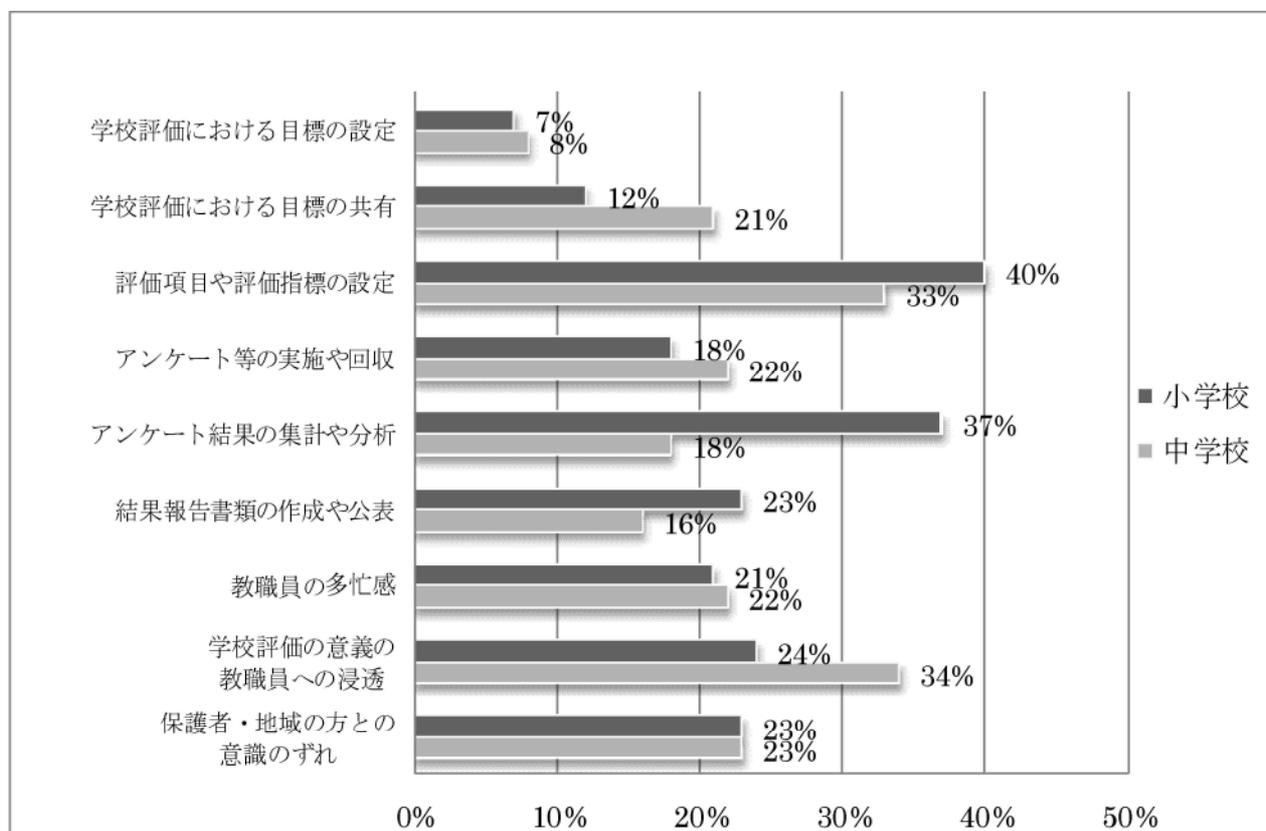
一方、学校評価の課題としては、アンケートの実施や回収、集計、分析等の作業が煩雑となる傾向にあるが、学校評価については多くの学校で児童生徒の学力向上や生活態度の改善等に効果があるとの結果が出ていることから、教職員の事務負担の軽減に向け評価作業の効率化を図ることが必要であり、平成26年6月から、新・学校評価支援システムの導入を行ったところである。

評価結果の公表方法や公表内容についての工夫

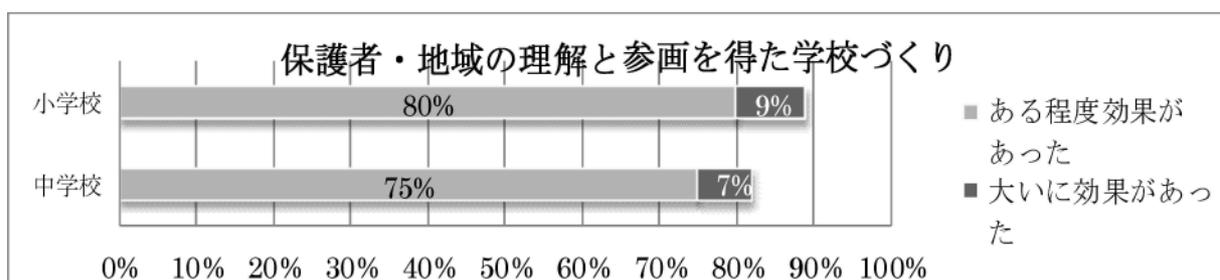
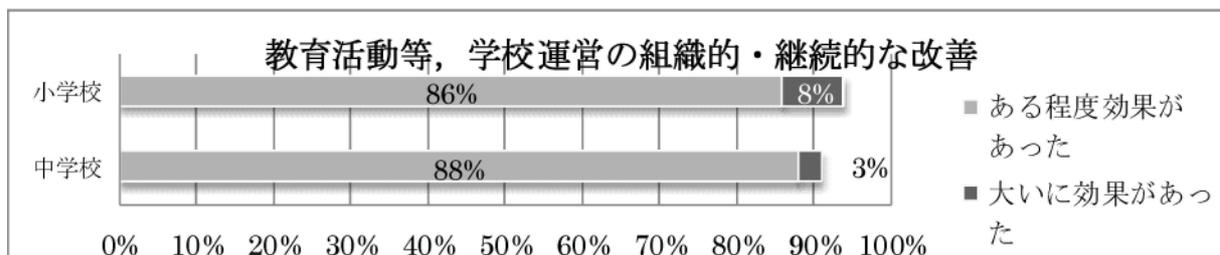
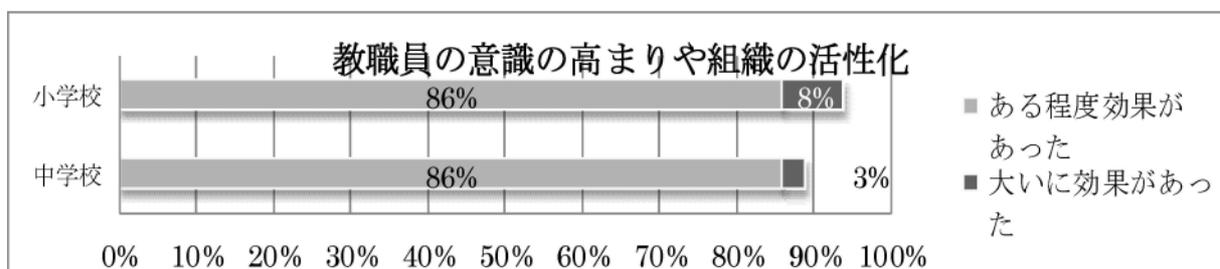
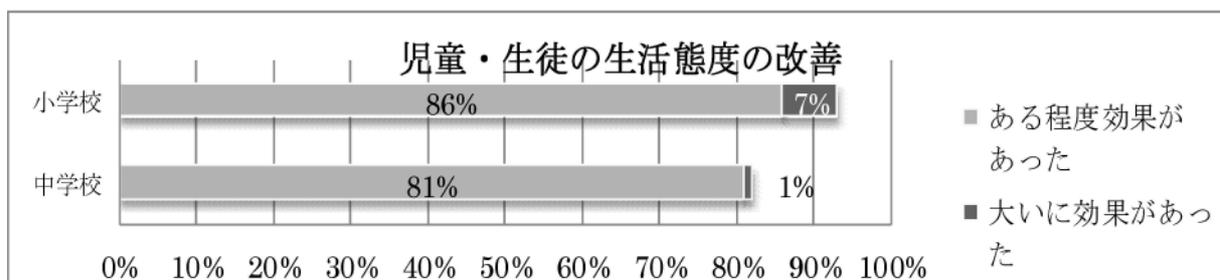
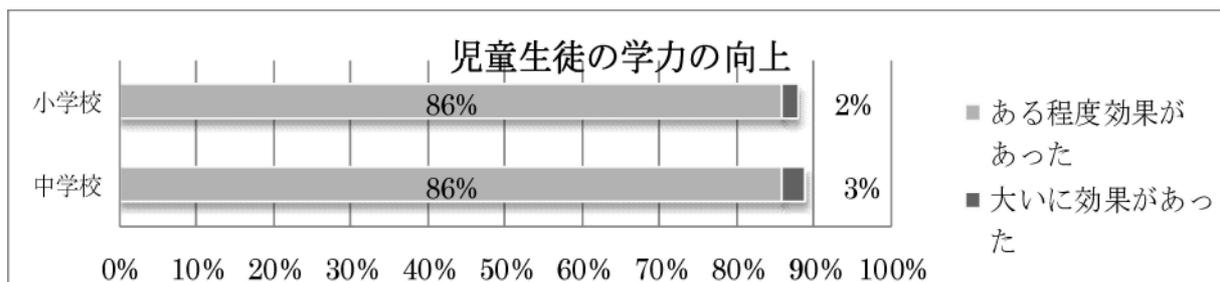


※評価結果のホームページでの公表については、全校で実施している。

学校評価に関する課題あるいは困難だったと感じられる点



学校評価の効果について



(4) 「第三者評価」等の実施状況

ア 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」について

本市の学校評価システムは、「自らを振り返り、互いに高め合う」ことを理念としており、学校・家庭・地域が「子どもを育む当事者」として関わることを重視している。

そのため、評価項目等も各校の課題に応じて重点化して設定している。一方、学校評価の実施状況や本市が進める学校評価システムの客観性・信頼性を検証するとともに、第三者的な視点で学校の教育の質の向上につなげるため、学識経験者等による「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」（以下「検証委員会」という）を設置している。

なお、検証委員会は、「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」第11条第2項の「・・・評価について調査し、審議するため」の委員会としての機能も果たしている、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づく附属機関である。

【検証委員会委員（25年度）敬称略・肩書は当時】

○天笠 茂	千葉大学教授	
今野 圭子	PTA 代表（京都市小学校 PTA 連絡協議会会計）	
大岩 英雄	公募委員（下京中学校学校運営協議会委員）	
加藤 明	京都光華女子大学副学長	
◎小松 郁夫	常葉大学教職大学院教授	
塩尻 マユミ	元向島南小学校長・元地域教育専門主事室副室長	
堀内 孜	環太平洋大学教授	
前平 泰志	京都大学教授	
今井 知子	京都市立明德幼稚園長	
大畑 眞知子	京都市立藤城小学校長	
太田 和男	京都市立双ヶ丘中学校長	
江川 正一	京都市立北総合支援学校長	
河村 広子	京都市教育委員会学校指導課長	※ ◎は委員長，○は副委員長

イ 検証委員会による学校訪問

本市の学校評価システムが、学校現場において、学校改善に向けたシステムとしての的確に機能しているかどうかを検証するため、学校訪問を実施した。

その結果、「中学校区内の学校間の連携、地域と学校との関係も見ることができた。」「校長のやる気、意欲、ビジョン、リーダーシップを発揮することによって、学校を変えていけるということがよくわかった。」等の評価をいただいた。

また、今後に向けた課題としては、「アンケートを答えている保護者から見て、学校評価が学校改善につながっているという接点が見えにくい。学校評価の取組を活かしながら、保護者も地域も学校を良くすることが目的であり、それをどれだけ見える形にできるかが問われている。」

「中学校区として、どういう子どもたちに育てていくのかを考えていく必要がある。今後は、小中学校で評価項目もすり合わせたり、アンケートもわかりやすく、具体的なものにしたりしないといけない。」などの意見をいただいた。

これらの意見をもとに、平成26年度の学校評価の実施にあたっては、「学校評価実施報告書」の様式の改善を図っている（16ページ参照）。また、小中一貫教育の推進に重点的に取り組んでいる学校を中心に、中学校区内で評価項目を合わせ、小・中学校が互いに児童・生徒の実態を把握することで、義務教育9年間の学習をより充実させるための取組を進めている。

【第三者評価の実施校】

以下の学校において、校長・担当教員ヒアリング、授業観察等を実施。

① 京都市立上京中学校

- ・日 時 平成25年11月25日（月） 9：00～12：00
- ・委 員 小松委員長（リーダー）、大岩委員、太田委員

② 京都市立神川中学校

- ・日 時 平成25年11月25日（月） 13：30～16：30
- ・委 員 小松委員長（リーダー）、大岩委員、太田委員

③ 京都市立神川小学校

- ・日 時 平成26年 1月17日(金) 9:00~12:00
- ・委 員 天笠副委員長(リーダー), 塩尻委員, 江川委員

④ 京都市立明親小学校

- ・日 時 平成26年 1月17日(金) 13:30~16:30
- ・委 員 天笠副委員長(リーダー), 塩尻委員, 江川委員

⑤ 京都市立美豆小学校

- ・日 時 平成26年 1月20日(月) 9:00~12:00
- ・委 員 天笠副委員長(リーダー), 今野委員, 大岩委員, 塩尻委員, 大畑委員

⑥ 京都市立羽束師小学校

- ・日 時 平成26年 1月20日(月) 13:30~16:30
- ・委 員 天笠副委員長(リーダー), 今野委員, 大岩委員, 塩尻委員, 大畑委員

⑦ 京都市立久我の杜小学校

- ・日 時 平成26年 2月13日(木) 9:00~12:00
- ・委 員 小松委員長(リーダー), 今野委員, 加藤委員, 堀内委員

⑧ 京都市立中京もえぎ幼稚園

- ・日 時 平成26年 2月13日(木) 13:30~16:30
- ・委 員 小松委員長(リーダー), 今野委員, 加藤委員, 堀内委員, 今井委員

ウ 平成25年度 検証委員会開催状況

① 第1回会議

- ・日 時 平成25年10月23日(水) 14:00~
- ・会 場 京都市役所4階 教育委員室
- ・議 題 検証委員会の学校訪問について
学校評価及び学校運営協議会について
- ・議事概要

(検証委員会の学校訪問について)

- 学校運営協議会の活動が活発に行われている学校, いわゆるモデル校のような学校を訪問して, 良い事例を発信していきたい。
- 同一中学校区にある小・中学校への訪問では, 地域との関係についても見ていきたい。
- 昨年度に引き続き, 幼稚園や総合支援学校の訪問も検討して欲しい。
- 学校から訪問して欲しいという声があれば, その学校を訪問できればよい。
- 小中一貫教育校を学校評価のフィルターを通して見ると, どのような評価になるのか。今後の訪問を検討してもらいたい。

(学校評価及び学校運営協議会に対して)

- 学校評価は単なる記録ではなく, その評価を基にどうアクションを起こすかを考えるもので, この本来の目的をもう一度周知する必要があるかもしれない。
- 学校へのニーズについてのアンケート結果を, もっと教職員に周知することが必要。管理職が, もっと学校経営の状況を具体的に提示する必要があるのではないかと。
- アンケートの結果からは, 8割以上が肯定的な意見として返ってくるが, 残りの2割をどうするかを考え, 手立てを打つことが学校評価の本質だと考えている。

- 昨年度、園長会の研修ということで、園長、教頭が集まり、学校評価に関する熟議を行った。評価項目をどうするかということ議論し、それぞれが話し合った結果を自園に持ち帰り学校評価に活かしている。
- 保護者からすると、アンケート項目の中にはどのような意図で聞いているのかわからないものがある。学校と保護者が学校経営の方向性をもっと話し合うことが必要。
- 京都は学校評価のパイオニアとして引っ張ってきたが、学校評価実施報告書のフォームが整備されてから形骸化していないか。学校評価実施報告書に書き込めば学校評価ができていると考えていないか。各学校で地域の特色があり、学校運営協議会があるのだから独自の学校評価になるべきである。
- 学校評価を学校運営協議会の中でどう組み入れ、どう展開するかは全国的にも課題である。「自己評価」と「学校関係者評価」という両面の仕組みを形骸化しないようにしてほしい。
- 学校評価実施報告書の評価指標に「アンケート結果」としか書いていない学校が多く見受けられる。アンケート結果のどの部分を評価指標として見ているかを書くべき。
- 学校評価実施報告書は、ホームページ等での公開を前提としているもの。学校の経営方針が個々の評価項目につながっていることや、取組の状況等が外部からも一目で分かるような工夫を考えてほしい。

② 第2回会議

- ・日 時 平成26年3月11日(火) 14:30～
- ・会 場 京都市役所4階 教育委員室
- ・議 題 検証委員会の学校訪問について
学校評価及び学校運営協議会について

・議事概要

(検証委員会の学校訪問について)

- 今回は、同一中学校区にある小・中学校を訪問したおかげで、校区内の学校間の連携、地域と学校との関係も見ることができた。検証委員会の学校訪問としては、重要なやり方なのではないかと感じた。
- 校長のやる気、意欲、ビジョン、リーダーシップを発揮することによって、学校を変えていけるということがよくわかった。
- 学校教育目標というミッションを教職員が理解し、実現に向けて動いていかないといけない。そして、動いてきた取組を点検する必要がある。その結果、成果が上がっていれば、京都市全体の財産にするなどのシステムづくりが必要。
- 学校評価は、数字のほうに目を奪われがちであるが、記名式で自由記述欄の意見に着目して、その意見の経年変化を学校経営の軸にされているのは、素晴らしい着眼点であった。
- 学校評価に関しては、低学年・中学年・高学年で傾向を分けられている学校があり、わかりやすいなと思った。また、記名式でのアンケートに書かれた意見を一つ一つ見て、改善していくという学校経営の新しいやり方を学んだ。
- 学校の自己評価結果を元に、保護者や地域の方とともに学校関係者評価で改善していくという意識は全般的に弱いのではないか。
- 学校評価をすること自体が目的になっていないか。アンケートを取る項目が、その学校の実態に即したものになっているかの点検が必要かと思う。
- 学校の評価アンケートを保護者は受け取っているが、保護者は受け身の状態。何のためにそのアンケートを答えているのか、なぜその質問なのかということ先生方に申し出る機会がない。意思疎通ができるアンケートをする必要があるのではないか。
- 学校運営協議会に出席しているが、「このような形でするのが学校運営協議会ですよ」と先生方から言われると、保護者はそうなのかなと思ってしまう。様々な形の学校運営協議

会があって、動いているということが地域、保護者にも知らせてもらえれば、そこから発見出来ることも多いと思う。

- 訪問した2校は、どちらも校長就任1年目の学校であったが、今までの体制を変えて、改革していこうという強い意志を感じた。通常、学校を変えることは、教職員の反発なども考えられるが、2つの学校では、そのようなことはあまり感じられなく、校長のリーダーシップ面をよく感じられた。
- 訪問した学校では、地域の協力が非常にあった。花壇や校内も地域の協力を得て、きれいにされていた。吹奏楽の活動では小学校も巻き込んだ、地域との連携があったのは強みである。
- 訪問した学校は、校長が地域の状況を十分に把握していたし、学校を安定させようということに関しては、十分取り組まれていたと感じた。
- 学校の状態が非常によいことを表すかのように、廊下がきれいで、靴も雑巾も整頓されていた。子どもが家に帰っても規律を守っていることで、保護者も変わるという話を聞いて、なるほどと思った。
- 訪問した幼稚園では、教職員もチームワークよく、子どもたちをよく見ていただいているように思えたが、話を聞いているうちに、幼稚園の力だけではこれからの経営が行き詰っていくような感じを受けた。他の委員からも幼小の連携を重視する提案があったように、幼稚園だけで動けることではなく、今後の課題であると感じた。
- 校長は、教職員一人一人のモチベーションを高める手立てを打っていた。
- 3年前に訪問した時よりも、生徒が落ち着いているように感じた。小規模の学校が3つほど集まったような人数が多い学校だったが、校長1人だと非常に大変なように感じた。
- 小学校で話を聞くと、中学校で抱えている課題は、小学校で既に現れていて、その連携が、小学校と中学校で十分につながっていない。小学校は小学校で、中学校は中学校で対応しようとしている。

(次年度以降の検証委員会の方向性等について)

- 今回訪問した地域では、学校運営協議会の活動が始まったばかりのところもあり、連携型(※)にも、支援型(※)にもなっていない学校運営協議会があると感じた。学校を支援してもらえれば御の字だというような感じで、まだまだ地域と学校の関係性が弱い。京都市の中でも、連携型になっているところもあれば、支援型のところもあるし、地域の実情に応じていくつかのタイプに整理していくことが必要。

※支援型の学校運営協議会…学校の方針に基づき必要な支援を行うことを活動の中心とするもの。

※連携型の学校運営協議会…学校の取組の成果や課題を共有し、さらなる改善策を学校とともに検討・実行するもの。

- 学校訪問について可能であれば、校長だけでなく、他の教員も同席した形でヒアリングを行うような形にならないか。また、訪問した後に学校へのフォローも必要でないか。
- 本検証委員会の活動を校長会に対して十分知らせていただくことも大切である。
- 本検証委員会の活動は、質の高い学校づくりを支援することであると思う。学校訪問をさせていただいた感想は、あらためて、教育は人だと感じた。人事も含めて、地域に応じた学校のマネジメントをしていただくことが大事。また、京都市は学校数もかなり多いので、支援型にもなれていない学校もまだあり、そういう学校運営協議会をどう支援していくか。学校運営協議会を設置する学校数を増やし、活動の仕方を工夫すると同時に、どうしたら子どもたちに質の高い教育を提供できるのかということ次年度以降も引き続き考えていかないといけない。
- 学校評価のアンケートについては、そろそろウェイトを低くすべきではないかと感じてい

る。保護者アンケートを重視するのではなく、顔と顔を合わせて意見を言える場を作ることや次年度以降の方向性にすべきではないか。

- 保護者は、幼稚園に入った時からアンケートを取らされていて、問い続けられている。アンケートをすることが慣例の行事になってしまうのではなく、違う目線で意見聴取をすれば、課題の見え方が違うのではないか。
- 学校教育に関しては、保護者の方からのニーズが一番多い。今の時代、保護者が学校運営協議会やPTAの活動に全力で取り組むのは難しい。全体を見通して仕事をしてやろうという方は、一度子育てを終えられた世代が多い。そうした熟年世代の活用を目指しているが、保護者と熟年世代とでは、意見が違うというのも事実でアンケートをすることも大切だと思う。ただ、アンケートを取ることが慣例行事になるのではなく、問いかけ方を工夫して、自分の学校の子どもたちの学力向上に活用できるものにしていかないといけないと思う。
- アンケートを答えている保護者から見て、学校評価が学校改善につながっているという接点が見えにくい。学校評価の取組を活かしながら、保護者も地域も学校を良くすることが目的であり、それをどれだけ見える形にできるかが問われている。
- 中学校区を一つのまとまりとしてどういう子どもたちに育てていくのかということを考えていく必要があるのではないか。小学校は、地域と連携を密に取っているが、中学校の生徒はどちらかという地域との連携は薄く、地域から苦言を呈されることは多いが、褒めてもらうことは少ない。中学校で学校運営協議会を開くことで、校区小学校の地域の方、校長先生等と共通理解できる部分があったり、中学校でこういうことを進めたらどうかという意見をいただいたりする。今後は、小中学校で評価項目もすり合わせる必要があるし、アンケートもわかりやすく、具体的なものにしていかないといけない。
- 保護者と学校の視点は違う。今までは学校からの一方通行的で、ずれている部分を問題にしてこなかった。規範意識1つ取っても、保護者と学校では考え方が違うはず。学校が一歩引いて、我慢強く聞くということも大切。
- そうした評価の観点を設定した理由をみんなに理解してもらう必要がある。そして、それを校長先生が、地域、保護者、教職員に説明しなくてはいけないと思う。

(5) 京都市版学校評価支援システム

ア 概要

評価の集計、分析、公表の迅速化を図るため、平成19年度から、パソコン上でマークシート方式のアンケートを作成し、迅速な集計ができるソフトウェアを全市で活用することとした。こうした中、京都市教育委員会と慶應義塾大学との連携協力に関する協定（平成20年8月締結）に基づき、平成22年度までの3箇年をかけて、「かんたん調査票作成ソフト」、「かんたん調査票読み取りソフト」、「かんたん課題分析データベース」の3つから構成される「京都市版学校評価支援システム」を共同開発し、評価業務の効率化や効果的なデータ活用を支援している。

イ 活用状況

中学校では学校評価支援システムの活用による「ニーズ調査型アンケート」及び「ニーズ調査型分析」を実施している割合が増加している。小学校では「ニーズ調査型分析」の実施割合が減少しているが、『かんたん課題データベース』による分析ではなく、アンケート結果と学校の取組状況から学校独自に分析している」と回答している学校が増えてきている。

アンケートの実施状況 ※	小学校		中学校		合計	
「重要度」と「実現度」を聞くニーズ調査型アンケートの実施	66	39.8%	21	28.8%	87	36.4%
「実現度」のみを聞くアンケートの実施	48	28.9%	29	39.7%	77	32.2%
合計	114	68.7%	50	68.5%	154	64.4%

※「かんたん調査票作成ソフト」を活用してアンケートを実施している学校の状況

データ分析の実施状況 ※	小学校		中学校		合計	
ニーズ調査型分析の実施	36	21.7%	14	19.2%	50	20.9%
ニーズ調査型以外の分析の実施	22	13.3%	5	6.8%	27	11.3%
合計	58	34.9%	19	26.0%	77	32.2%

※「かんたん課題分析データベース」を活用してデータ分析を実施している学校の状況

(参考)

1. 「重要度」と「実現度」を聞く「ニーズ調査型」アンケートの例

(3) 以下の各項目について、「(A)どのくらい重要だと思うか(重要度)」と「(B)実現できていると思うか(実現度)」をそれぞれお答えください。

		重要度				実現度				
		重要である	やや重要である	あまり重要ではない	重要ではない	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない	わからない
1	子どもが適切な言葉づかいをすること	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	子どもが丈夫な体をつくろうとすること	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	子どもが学校の決まりや約束を守って生活すること	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2. ニーズ調査型(魅力・課題発見型)分析の例

京都市版学校評価支援システムでは、アンケートの中で各項目の重要度と実現度を同時に聞くことにより、学校の魅力・課題を自動的に分析することができる。

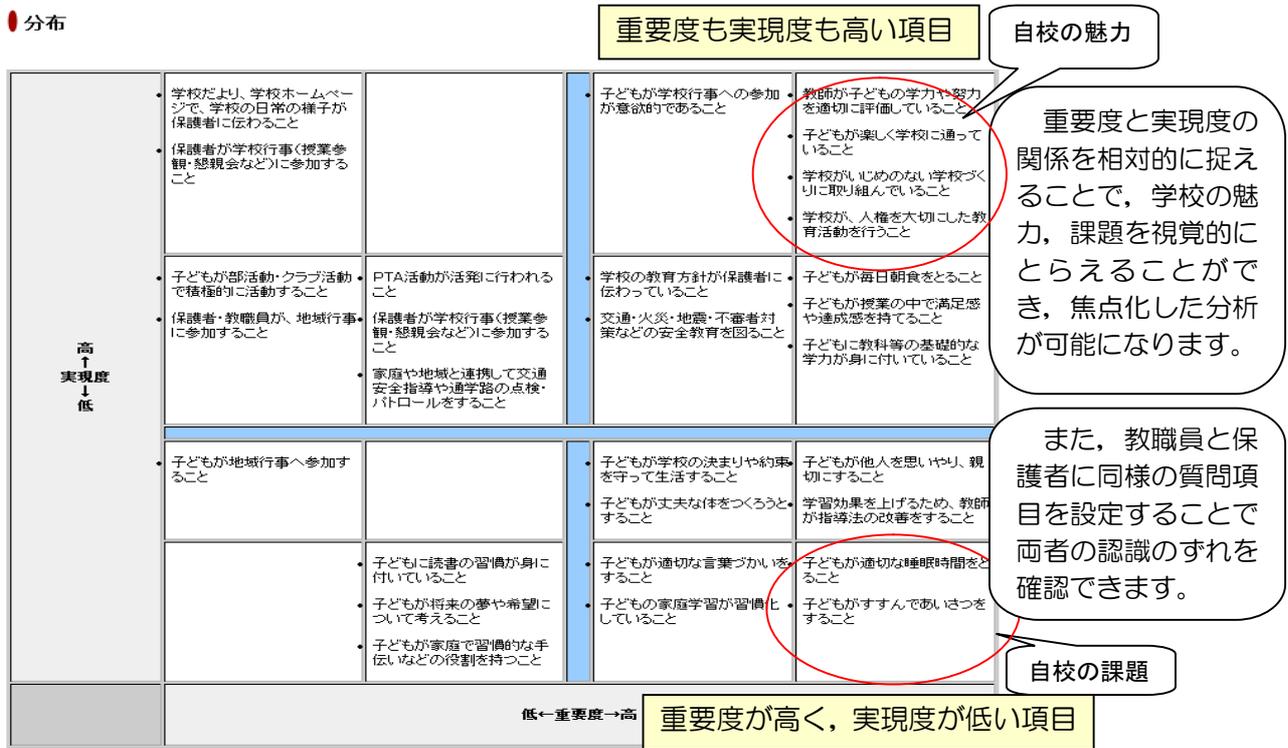
分析結果例

質問文	▲重要度▼	▲実現度▼	▲ニーズ度▼
子どもが適切な言葉づかいをすること	6.6	3.9	27.1
子どもが丈夫な体をつくろうとすること	6.6	4.4	23.8
子どもが学校の決まりや約束を守って生活すること	6.7	4.6	22.9
子どもが他人を思いやり、親切にすること		7.7	22.5
子どもが楽しく学校に通っていること		3.3	18.4
子どもが将来の夢や希望について考えること	6.3	4.1	24.5
子どもが家庭で習慣的な手伝いなどの役割を持つこと	6.3	3.8	26.2
子どもが部活動・クラブ活動で積極的に活動すること	5.9	5.1	17.4
学校が、心めのない学校づくりに取り組んでいること	6.9	5.3	18.4
学校が、人権を大切にした教育活動を行うこと	6.9	5.6	16.7
学校の教育方針が保護者に伝わっていること	6.5	4.8	20.7
学校だより、学校ホームページで、学校の日常の様子が保護者に伝わること	6.1	5.2	17.1

■は、重要度が高い項目

■は、実現度が低い項目

■は重要度が高く、実現度が低い項目。この項目を重点課題に位置付けるなど、回答に表れた願いを学校の取組に反映させることができます。



重要度と実現度の関係を相対的に捉えることで、学校の魅力、課題を視覚的にとらえることができ、焦点化した分析が可能になります。

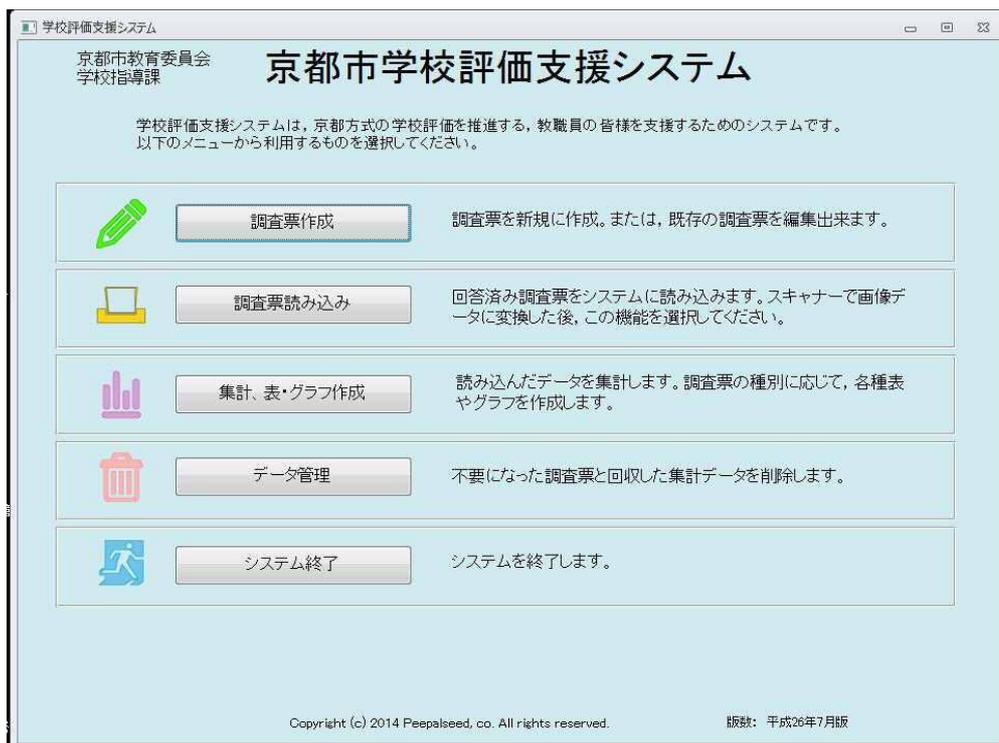
また、教職員と保護者に同様の質問項目を設定することで両者の認識のずれを確認できます。

ウ 新・学校評価支援システムの開発・導入

慶應義塾大学との共同開発により20年度から活用してきた学校評価支援システムは、その運用開始から6年が経過したことから、本市の新たな情報環境や情報機器に対応し、かつ機能面でも分析結果のグラフをより見やすくする等の改善を加えた本市独自の「新・学校評価支援システム」を平成25年度中に開発し、平成26年6月末から運用を開始している。

- ネットワーク上ではなく、パソコン単体での動作が可能（セキュリティの改善）
- アンケート作成・集計・分析・データ管理の機能を一つのシステムメニューに統合
- アンケート作成では、保存した内容の編集や複製が可能
- 集計結果のグラフ化をする際のカラー・白黒印刷のパターン切替えが可能

<新システムのメニュー画面>



(6) 学校評価実施報告書の様式の改善

中間評価と年間評価の年2回、学校園で作成し、教育委員会に提出される学校評価実施報告書の様式について、「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」からの意見（「評価項目と取組の関係」や「取組の結果分析と改善策の関係」が分かりにくい等）を踏まえ、学校教育目標の実現に向けた個々の取組の効果を検証することでさらなる改善につなげるという流れをより理解しやすい形になるよう、改善に着手したものである。（平成26年度から新しい様式を導入している。）（様式は、次ページ参照）

<様式の変更箇所>

○評価項目ごとに記入する内容を以下のとおり変更し、これまで以上に評価項目と取組の関係や設定した評価指標の結果と分析・改善策との関係が分かりやすい形とした。

（変更前）「評価項目」、「評価指標」、「分析（成果と課題）」、「改善策」

（変更後）「評価項目」、「自校の取組」、「アンケート項目・各種指標」、「アンケート結果・各種指標結果」、「分析（成果と課題）」、「改善策」

○評価の分野（「確かな学力」等）ごとに、自己評価、学校関係者評価の記入欄を横に並べ、関係が分かりやすい形とした。

平成26年度 学校評価実施報告書 <記入例>

学校名(京都市立京都小学校)

1 平成26年度 重点評価項目

1. 確かな学力の育成(つけたい力を明確にした言語活動)	2. 豊かな心の育成(自律心と責任感の育成を目指した協働活動)	3. 健やかな体の育成(基本的生活習慣の確立, 体力の向上)
------------------------------	---------------------------------	--------------------------------

2 1回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定					自己評価		学校関係者評価				
・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定					・アンケート実施結果, その他指標の結果について整理		評価日	平成26年8月22日	評価日	平成26年9月24日	
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策	評価者(いずれかに○)	学校評価委員会	学校関係者評価による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策	
1	確かな学力	主体的に考え、表現し、伝え合える能力の育成 読書の習慣化 家庭学習の習慣化	各教科での言語活動のさらなる充実 年三回の授業研究 100冊読書の定着 朝読書の確実な実施 学校だよりによる啓発活動	児童の話す・聞く態度の変容・ジョイントプログラムの結果 平日は平均何時間家や図書館などで読書していますか 平日は授業以外に平均何時間勉強していますか	ジョイントプログラム国語・算数の正答率が2%上昇 「30分以上読書している」児童の割合は85% 「30分以上勉強している」児童の割合は60%	⇒	・言語活動の充実により主体的な授業づくりやジョイントプログラムの結果にも効果が出てきている。 ・「平日30分以上勉強している」児童の割合が目標の70%に達していない。	・授業の中で結論と理由を述べる取組をさらに充実させる。 ・「自学自習のすすめ」を個別懇談会等で活用する。 ・宿題の出し方・量について見直す。	⇒	・学校で取り組んでいる「自習ノート」について良い例を掲示すればどうか。 ・1年間に100冊読んだ子どもを表彰するなど促進の工夫を考えて欲しい。	・読書の習慣化については、学校運営協議会の読書部会と連携していきたい。 ・学校図書館の環境整備を進めるため、学校運営協議会で地域にボランティアを募っていく。
2	豊かな心	豊かな体験活動の実践 望ましい言葉づかいの徹底 協働活動を通じた豊かな心の育成	ボランティア活動 農業体験 児童会を中心とした発信と地域ぐるみの取組 ・各活動で話し合いや協力の場を積極的に作る ・保護者・地域とのクリーンキャンペーンの実施	PTAや地域行事に参加していますか 子どもは望ましい言葉づかいができていますか 友達や家族を大切にしていますか きまりをしっかりと守っていますか	「参加している」児童の割合は92% 重要度は高いが、実現度は低い(保護者) 「できている」児童の割合は95%	⇒	・PTAや地域行事に参加している子どもの割合が年々増加しており、取組の成果が見られる。 ・教職員は重要度は高く実現度も高いと考えており、意識の差異が明確になった。 ・協働活動を通して、クラス等のまとまりができています。	・体験活動で感じたことを、自らの言葉で表現する場を充実させる。 ・言葉づかいについては、児童会活動と連携し「マナーアップ週間」を強化する。	⇒	・登下校時の見守り時に、子ども同士で乱暴な言葉づかいをしているのを見たことがある。 ・協働の場面を通して感じたことや今後活かしていきたいことを、もう一度保護者・地域・児童で考える機会を作ることが大切。	・ボランティア活動やクリーンキャンペーンなどは、学校運営協議会の体験活動部会がサポートしていく。 ・学校運営協議会の活動と学校教育活動の関連付けを理事会でも考えていきたい。
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立 体力の向上	早寝・早起き・朝ごはんの呼びかけ ・遊びやスポーツを通じた運動の習慣化 ・朝マラソンの取組	早寝・早起き・朝ごはんなど規則正しい生活はできていますか ・自分からすすんで体を動かしていますか ・マラソン参加状況及び体力テストの結果	「できている」児童の割合は85% 「うごかしている」児童の割合は90% 参加児童数は約8割	⇒	・早寝・早起き・朝ごはんができていない割合は90%を目指したい。 ・体を動かすことが好きな児童の割合が高まっている。	・保健室だけでなく、学級通信等で積極的にトピックとして取り上げる。 ・朝マラソンについては、チャレンジカードや表彰制度の導入で、より積極的な児童の参加に取り組む。	⇒	・チャレンジカードや表彰制度などの活用は、子どもが興味を持って頑張るうえで効果があると思う。 ・体を動かす楽しさをみんなで共有できる取組を充実してほしい。	学校運営協議会の野外活動・スポーツ部会で、大文字山・比叡山にのぼるイベントを実施し、子どもの体力向上をサポートする。
4	独自の取組	小中一貫教育の推進 情報発信の充実	・小中合同授業研修会の実施 ・地域ふれあいコンサートの実施 ・小中合同進路状況説明会の実施 積極的なホームページの更新	・小中の連携が組織的に取れていますか(教職員) ・小中合同研修会の実施回数 学校ホームページへのアクセス数	・「小中の連携が取れている」と答えた教職員の割合は90% ・年3回の授業研修会を実施 年間1,620回のアクセス数	⇒	・「小中の授業内容を参観し、忌憚のない意見交換をすることができた」という声が多かった。 ・ホームページについては、時間のある時に更新しているが、閲覧状況が伸び悩んでいる。	・今年のはじめて、研修終了後に意見交換会を必ず設ける。 ・ホームページは、学年からの発信を増やす方向で更新頻度を上げ、見てもらえるような情報発信を保護者・地域に行う。	⇒	・中1ギャップが言われているが、授業を見合ったりすることがお互いを理解する上で大切。 ・小中の授業を見て、違いが大きいことに驚いた。 ・ホームページは見えて楽しい内容になっている。	地域ふれあいあいコンサートなどの小中合同行事には、地域をあげて支援していく。

平成26年度 学校評価実施報告書 <記入例>

3 2回目評価

学校名(京都市立京都小学校)

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にわらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定					自己評価		学校関係者評価	
・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理					評価日	平成27年2月13日	評価日	平成27年3月2日
					評価者・組織	学校評価委員会	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策	学校関係者評価による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
1	確かな学力	主体的に考え、表現し、伝え合える能力の育成 読書の習慣化 家庭学習の習慣化	各教科での言語活動のさらなる充実 年三回の授業研究 100冊読書の定着 朝読書の確実な実施 学校だよりによる啓発活動	児童の話す・聞く態度の変容・ジョイントプログラムの結果 平日は平均何時間家や図書館などで読書していますか 平日は授業以外に平均何時間勉強していますか	ジョイントプログラム国語・算数の正答率が2%上昇 「30分以上読書している」児童の割合は85% 「30分以上勉強している」児童の割合は60%	⇒	⇒	⇒
2	豊かな心	豊かな体験活動の実践 望ましい言葉づかいの徹底 協働活動を通じた豊かな心の育成	ボランティア活動 農業体験 児童会を中心とした発信と地域ぐるみの取組 各活動で話し合いや協力の場を積極的に作る 保護者・地域とのクリーンキャンペーンの実施	PTAや地域行事に参加していますか 子どもは望ましい言葉づかいができていますか 友達や家族を大切にしていますか きまりをしっかり守っていますか	「参加している」児童の割合は92% 重要度は高いが、実現度は低い(保護者) 「できている」児童の割合は95%	⇒	⇒	⇒
3	健やかな体	基本的な生活習慣の確立 体力の向上	早寝・早起き・朝ごはんの呼びかけ 遊びやスポーツを通じた運動の習慣化 朝マラソンの取組	早寝・早起き・朝ごはんなど規則正しい生活はできていますか 自分からすすんで体を動かしていますか マラソン参加状況及び体力テストの結果	「できている」児童の割合は85% 「うごかしている」児童の割合は90% 参加児童数は約8割	⇒	⇒	⇒
4	独自の取組	小中一貫教育の推進 情報発信の充実	小中合同授業研修会の実施 地域ふれあいあいコンサートの実施 小中合同進路状況説明会の実施 積極的なホームページの更新	小中の連携が組織的に取れていますか(教職員) 小中合同研修会の実施回数 学校ホームページへのアクセス数	「小中の連携が取れている」と答えた教職員の割合は90% 年3回の授業研修会を実施 年間1,620回のアクセス数	⇒	⇒	⇒

4 総括・次年度の課題

・確かな学力の定着に向けた取組は、算数科を中心に、関係者評価において一定の評価をいただいた。今後も、さらなる取組の充実を図り、教員の発問の仕方や授業構成等の改善を図っていく。
 ・学校評価を通じ、保護者や地域の方に本校の教育活動について、理解を深めていただくことができた。
 ・次年度に向けてアンケート項目が、学校教育目標と関連したものになっているかの点検が必要。
 ・小中9年間の教育を見据えて、小中学校で評価項目やアンケート項目を統一し、経年変化を見ているようにしていきたい。

4 学校評価関係年表

年月	京都市	国
H10年9月		○中教審答申『今後の地方教育行政のあり方について』 「…各学校においては、教育目標や教育計画等を年度当初に保護者や地域住民に説明するとともに、その達成状況等に関する自己評価を実施し、保護者や地域住民に説明するように努めること…」
H12	○「京都市立小学校、中学校及び幼稚園の管理運営に関する規則」「京都市立高等学校の管理運営に関する規則」「京都市立総合支援学校の管理運営に関する規則」改正（学校評議員の設置を明記）	
H12年12月		○教育改革国民会議報告『教育を変える17の提案』 「…地域で育つ、地域を育てる学校づくりを進める。単一の価値や評価基準による序列社会ではなく、多様な価値が可能な、自発性を互いに支えあう社会と学校を目指すべき…」 「…各々の学校の特徴を出すという観点から、外部評価を含む学校の評価制度を導入し、評価結果は親や地域と共有し、学校の改善につなげる…」 ○教育課程審議会答申『児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価のあり方について』 「…各学校が、児童生徒の学習状況や教育課程の実施状況等の自己点検・自己評価を行い、それに基づき、学校の教育課程や指導計画、指導方法等について絶えず見直しを行い改善を図ることは、学校の責務である…」 「…自己点検・自己評価の公表については、地域や学校の実情に応じて、各教育委員会等においてそのあり方を検討することが望ましい。また、公表に当たっては、序列化などの問題が生じないよう、十分留意する必要がある…」
H13年4月	○学校評議員を全校・園に設置	
H13年8月	○京都市新世紀教育改革推進プロジェクト「学校評価部会」発足（～平成15年2月）	
H13年9月	○京都市学校評価実践研究協力校7校を指定	
H14年2月		○中教審答申『今後の教員免許制度のあり方について』 「…学校と学校外との双方向のコミュニケーションの成立を確実にするため、学校の自己点検・自己評価の実施とその結果を保護者や地域住民等に公表する学校評価システムを早期に確立することを提言する…」
H14年3月		○小・中学校設置基準 （自己評価の実施と結果の公表が努力義務化。保護者等に対する情報提供を積極的に行うよう規定）
H14年4月	○京都市では学校評価を全校種40校で実施	
H14年11月	○「新しいタイプの学校運営のあり方に関する実践研究」で国が御所南小を指定。同事業の一環として、京都市が独自に高倉小を指定	
H15年3月	○地域教育専門主事室「今求められる学校づくりのために」（実践事例集・ガイドライン）発行	

年月	京都市	国
H15年4月	○学校評価を全校・園で実施	
H15年9月	○「新しいタイプの学校運営のあり方に関する実践研究」の一環として、京都市が独自に京都御池中を指定。すでに指定を受けている御所南小・高倉小と共に実践研究を進める	
H16年3月	○評価結果を全校・園で公表	
H16年11月	○京都市立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則の制定 ○御所南小・高倉小・京都御池中に学校運営協議会を設置	
H17年5月	○学校運営協議会5校設置	
H17年6月		○閣議決定『経済財政運営と構造改革に関する基本方針2005』（義務教育における外部評価の実施と結果の公表のためのガイドライン策定が掲げられる） ○中央教育審議会答申『新しい時代の義務教育を創造する』（大綱的な学校評価ガイドラインの策定が必要と提起）
H17年10月		○中教審答申『義務教育の構造改革』 「…教育の結果の検証を国の責任で行う。具体的施策として全国学力調査と学校評価システムをあげた…「教育の質的向上に寄与する学校評価」という新たな捉え方」
H18年3月	○学校運営協議会17校設置	○文部科学大臣決定『義務教育諸学校における学校評価ガイドライン』（京都市などの事例を基に国の学校評価ガイドライン発表）
H18	○児童・生徒によるアンケート評価を全校実施	
H18年12月	○学校運営協議会に関する専門委員会内に学校評価専門部会（平成19年に学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会に改組）を設置	○「規制改革・民間開放推進に関する第3次答申」（学校教育制度の評価確立が求められる） ○教育基本法改正
H19年1月		○教育再生会議第1次報告『社会総がかりで教育再生を』（保護者等による実効ある外部評価の導入とその結果の公表について提言）
H19年3月	○京都市教育委員会「学校評価実践協力校の実践報告集」発行 ○学校運営協議会60校設置	○初等中等教育局長通知 「…学校評価制度等に係る運用上の工夫等について」（個人情報に配慮した上でホームページ等で評価結果を公表するよう促している） ○中教審答申『教育基本法の改正を受けて緊急に必要な教育制度の改正について』 「…情報提供に関する学校の責務の明確化は、公の性質を有する学校が、自らの説明責任を果たすためにも重要…」 ○文部科学省通知 「…個人情報に配慮した上で、評価結果をホームページ等で公表することを推進する…」

年月	京都市	国
H19	○評価結果のHP公表の徹底	
H19年4月	○「京都市立小学校、中学校及び幼稚園の管理運営に関する規則」「京都市立高等学校の管理運営に関する規則」「京都市立総合支援学校の管理運営に関する規則」改正(学校評価を規則にも明記) ○学校評価ガイドラインの改訂	
H19年6月	○「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」制定 (学校教育活動についても条例の対象とした。全国初)	○学校教育法一部改正
H19年12月	○京都市「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」第1回開催	○「学校教育法施行規則一部改正」 (学校評価を生かした学校改善及び教育水準の向上、保護者・地域住民等への教育活動や学校運営に関する情報の積極的な公開の規定を盛り込む)
H20年1月		○文部科学省『学校評価ガイドライン』改訂 (19年6月の法改正を受けての改訂)
H21年3月	○学校運営協議会 142 校設置	
H21年6月	○京都市学校評価ガイドライン【第3版】策定	
H22年3月	○学校運営協議会 163 校設置	
H22年7月		○文部科学省『学校評価ガイドライン』改訂 (第三者評価の在り方に関する記述の充実)
H23年3月	○学校運営協議会 171 校設置	
H23年11月		○文部科学省『幼稚園における学校評価ガイドライン』改訂 (第三者評価の在り方に関する記述の充実)
H24年3月	○学校運営協議会 184 校設置	
H25年3月	○学校運営協議会 192 校設置	
H26年3月	○学校運営協議会 210 校設置	

Ⅱ 学校での取組事例

学校教育目標

わかる喜び, できる喜び 笑顔あふれる久我の杜
～感動のある学校～

《めざす子ども像》

1. いのちを大切にする子
2. 心通わせ, 思いやりをもって助け合う子
3. 自分の考えを確かにし, よく考えて行動する子
4. 最後まで頑張る子

こころ通わせ 助け合う

かっこう大好き 久我の杜っ子

のびのび活動 最後まで

もりもり元気 心と体

《めざす学校像》 ～一人一人の子どもを徹底的に大切にする学校～

1. 学校・家庭・地域が連携し, 子ども一人一人の安心・安全を守る学校
2. 子ども一人一人が認められ, 尊重され, 大切にされる学校
3. 子ども一人一人が「わかる喜び」を実感できる授業の構築を目指す学校
4. 子ども一人一人が目標をもち, やりぬこうとする意欲あふれる学校

《学校経営方針》 ～三つの指針～

1. あらゆる教育の場で, お互いを尊重し認め合う人権尊重の精神を基盤とし, 一人一人の子どもの学力を最大限に伸ばす指導の充実を目指し, 学ぶ意欲と目的意識をもった主体的・自発的な子どもを育てる。【確かな学力】
2. あいさつの徹底や規範意識の育成を通して, 支え合い高め合う集団作りを目指すとともに, いのちを大切に, 人権を尊重する心を育てる。【豊かな心】
3. 健康で安全な生活の構築に向けて, 自らの生活習慣・食生活を見直し, 心身の健康を維持し, 生き生きと生活できる安全で安心な生活づくりの取組を充実させる。【健やかな体】

久我の杜小学校の学校評価について

1 評価のねらい

学校関係者の意見を教育活動に反映させ、保護者・地域とのよりよい連携を進めていく。

2 重点評価項目

- 基礎基本の学力の定着
- きまりやルールを守ろうとする態度の育成

3 評価手法

教職員・保護者・児童・地域に対するアンケート調査を実施した。アンケート結果の他、全国学力学習状況調査やジョイントプログラムの結果や質問項目の内容、朝のあいさつや、授業での態度など、子どもたちの様子についても評価の判断材料として分析を行い、「学校評価実施報告書」を作成して教育委員会に報告するとともに、アンケート結果をまとめ、学校だよりやホームページで公表した。

4 アンケート結果等による分析

(1) 規範意識の向上について

アンケート結果によると、「気持ちよく登校できている」と約9割の児童が回答しており、「あいさつ」についてもあいさつ運動等の結果、達成度が高められている状況である。一方、「学校のきまりやルールが守れていますか」という質問に対しては、約3割の児童が「あまりできていない」、「できていない」、「わからない」と答えるという結果となった。規範意識の低下は「きまりを守れない」というだけではなく、「忘れ物をする」、「不必要なものを持ってくる」、「授業中、私語をする」といった行動にもつながりやすく、学習環境の乱れや学習意欲の低下にもつながりかねない。

そのため、学校だよりでは、6月号に掲載した「規範意識を育むための、効果的なほめ方・叱り方」について10月号で再度とりあげ、子どもたちに規範意識を育むためには周囲の大人の関わり方が大切であり、学校・家庭・地域が協力して子どもたちに関わっていくことを呼び掛けている。

人権教育や道徳教育、SST（ソーシャルスキル・トレーニング）※等を通して、社会の中で、相手を大切にしながら関係を作っていく力を育てていくための取組を実践しているが、規範意識の改善は学力向上にも大きな関わりがあると考えられ、今後も重点的に取り組むべき課題であることが明確になった。

※ 「友達への謝り方やその受け入れ方」など相手を思いやる気持ちや人間関係づくりのためのスキルを身に付けるためのトレーニング。月ごとにテーマ設定し、学級活動の時間に実施している。

(2) 学習意欲を高める授業づくりと、家庭学習の充実について

確かな学力に関する「基礎基本の学力」の評価結果において、教職員の約9割が、わかる授業の構築に向けて取り組んでいると回答している。児童の達成度についても、後期のアンケートでは7割以上まで伸びており、算数科を核とした授業改善の取組やジョ

イントプログラム等の活用により「分かるまで頑張ろうとする」学習の成果が出ていると考えられる。

今後においても学習のめあてを明確にし、知識を得て活用することの喜びや達成感を味わうことができ、一層学習意欲を高められる授業づくりを工夫していく必要がある。

また、「家庭学習」や「忘れ物」、「家庭での食生活」、「家庭での役割づけ・責任づけ」といった点では保護者から「あまりできていない」、「できていない」といった回答が3～4割程度という状況もあり、家庭の教育力が十分発揮できていない様子も一部でうかがえるため、この結果を各家庭に知っていただくとともに、家庭学習や生活習慣の重要性について引き続き、情報発信していく必要があると考える。

5 自己評価

学校評価実施報告書（32，33ページ）を参照

6 学校関係者評価

本校では、自己評価の結果をふまえ、学校評議員会による学校関係者評価を実施してきたが、平成25年11月に学校運営協議会が発足して以降は、学校運営協議会による学校関係者評価を実施している。

学校関係者評価では、「登下校中のあいさつの仕方や、声の大きさが気になる。」、「児童会を中心にあいさつ運動をがんばっているのは分かるが、家庭でのあいさつがなされているのか、保護者への働きかけが必要である。」、「学校の決まりを守らず、危険なことをしたり、迷惑をかけたりしていることもある。規範意識を高める必要性を感じる。」、「規範意識は中学生も含めてこの地域の課題であり、地域も連携して取り組んでいきたい。」「学校運営協議会が発足し、今まで以上に学校と地域が結びつき、地域活性化を図っていきたい。」というご意見をいただいた。

また、改善に向けた支援策としては、「あいさつと規範意識について、明確な課題であり、教職員・保護者・地域がそれぞれ取り組めることを明確にして重点的に取り組んでいきたい。」、「SSTの授業を契機とし、相手を大切にする意識が習慣化・一般化するまで指導を継続する。」、「道徳教育、人権教育を学校生活の中での基盤とし、実践できる力となるよう見直し、検討していく必要がある。そして他人を思いやる心を育てたり、規範意識を育むための取組を推進したりしていきたい。」といった提案をいただいた。

7 総括・次年度に向けた課題等

- 学校全体での研究の取組や「あいさつ運動」などにより、課題の改善が少し見られたことは成果であった。改善が見られた項目については、子どもや保護者の振返りを大切にしながら、今後も継続・充実・発展させる形で取組を進めていきたい。
- 児童自らが気づき、考え、実践できる指導を意識して取り組んでいきたい。また、保育園と小・中学校、家庭、地域で取組の内容や子どもの状況について情報を共有し、さらに連携を深めていきたい。

学校目標：わかる喜び、できる喜び、笑顔あふれる久我の杜 ～感動のある学校～
 校長 村田 稔子 TEL935・0157 FAX935・0158
 メールアドレス koganomori@s@edu.city.kyoto.jp

10月 平報 こがのもり

お知らせ

○学校納入金振替日のご案内(10月10日)
 10月10日(木)は、10月の振替日になります。今回は、9日(水)までに振り込んでくださるようお願いいたします。振り込んでいただく金額は下表のようになります。

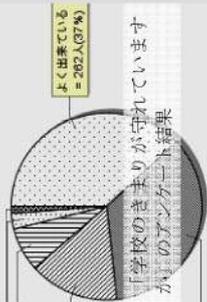
学年	給食費	学年費(構立費)	合計
1,2年	4,300円	1,000円	5,300円
3年	4,300円	1,420円	5,720円
4,6年	4,300円	3,000円	7,300円
5年	4,300円	4,000円	8,300円

「規範意識」を高めるために

4月に「全国学力学習状況調査」が行われました。その結果、学力の課題よりも気になったのが、質問紙における「規範意識」の低さでした。7月に行なった「児童ふりかえりカード」でも全校児童の25%、つまり4分の1もの児童が「学校のきまりや約束を守れていない」という実態です。

6月号でもお知らせしましたが、「規範意識」の低下は学習環境を乱し、子どもたちの学習の意欲の低下にもつながります。子どもたちに「規範意識」を育むためには、周りで関わる大人の関わり方が大切です。

まず、子どもたちの生活態度をよく見ていきましょう。そして、ほめること、叱ることの方法やタイミングを考え、実行しましょう。そして、学校と家庭、地域とがともに協力し合って取り組んでいきましょう。



非常時に備えて～引き渡し訓練～

9月8日の日曜参観時に大地震が発生したことを想定した避難訓練を行い、その後、保護者への引き渡し訓練を行いました。本来なら、運動場での引き渡しとなるはずでしたが、雨天のため、登校班の担当教室での引き渡しとなりました。多くの保護者の方が参加してくださり、体育館では300名以上もの保護者の方が集まってくれました。参加された保護者の方が、誘導の指示に従い、整然と行動していただいたおかげで大きな混乱もなく、スムーズに引き渡しを行うことができました。また、登校班の担当の教室や教師を知る良い機会になったとも思います。

16日には大雨洪水特別警報が発令され、学校が避難所となりました。非常時の対応の仕方について、保護者や地域の方とさらに連携を深めていきたいと考えています。



引き渡し訓練の様子

「みささの家」での活動を行いました。

9月13日～15日までの3日間、4年生は「奥志摩みささの家」での野外活動を行いました。天候にも恵まれ、予定していた活動はすべて行うことができました。

1日目は、野外炊事とまもめし。野外炊事は遅れた時間を取り戻すほど手際よく行うことができました。

2日目は、磯観察、浦山ラリー、キャンプファイアー。磯観察は生き物より海の水と戯れた感じでした。キャンプファイアーは、各クラスの出し物が楽しかったです。

3日目は、志摩マリソランドでペンギンを触ったり、魚に餌をやったり、グループごとに見学したりしました。

3日間の活動を通して、家族のもとを離れ、自分自身で過ごす態度が少し養えたのではないのでしょうか。そして、帰校式での日焼けした顔がたくましく感じられました。



日	曜	校時	10月の主な行事	PTA・地域	課外
1	火	A	演劇鑑賞(6年)		さらさら函
2	水	A	ALT スクールカウンセラー		部活動
3	木	A	訪ねかじ(経書)フアIP ALT 参観・懇談(1・3・5年)		さらさら高
4	金	A	訪ねかじ ALT 参観・懇談(2・4・6年)		部活動
5	土		土曜学習(6年)		
6	日				
7	月	A	ALT委員会		*
8	火	A	ALTソフィア(5年)		さらさら函
9	水	A	まなび説明会 10:00		部活動
10	木	B	まなび説明会 18:00		さらさら高
11	金	A	前期終業式 修学旅行報告会(6年)		部活動
12	土				
13	日				
14	月		体育の日 全市陸上記録会		
15	火	A	後期始業式		さらさら函
16	水	A	遠足(2年) 視力検査(1年) スクールカウンセラー		部活動
17	木	B	訪ねかじ(経書)フアIP 視力検査(2年) 代表委員会		*
18	金	A	訪ねかじ 遠足(1年) 視力検査(3年)		部活動
19	土				
20	日				
21	月	A	視力検査(4年) クラブ		*
22	火	A	もりの集会 視力検査(5年)		さらさら函
23	水	A	スチューデントシティ(5年) 視力検査(6年)		部活動
24	木	4H	4H授業		*
25	金	A		子育て講座	部活動
26	土		地域交流演習委 全市相撲交流会		
27	日				
28	月	A	クラブ		*
29	火	A	SST ジュニア京都検定		さらさら函
30	水	A	歯科検診	まなび開講式	部活動
31	木	B	歯磨き巡回指導		さらさら高

11月の主な行事…7日(木)・8日(金)…学習発表会
 14日(木)・15日(金)…持久走大会
 27日(水)…支部育成合同運動会(た)
 29日(金)…社会見学(4年)

教職員研修のため、1部のクラスを除き、13:15頃の下校となります。まなびもありません。

京都新聞社の取組で、地震についての話を聞いたり、質問したりして災害に関する関心を高めます。

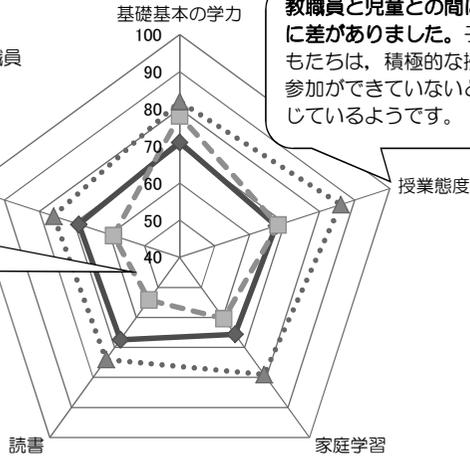
学校評価の結果を振り返って

学校評価〔前期〕結果の考察と改善策

夏休み前後に実施した学校評価の結果をまとめましたので、お知らせします。グラフの数値で使っている達成度は、「わからない」をのぞいて、「よくできている」、「だいたいできている」を合わせたものです。なお、各項目の詳細な数値につきましては、ホームページ上に公開しておりますので、そちらをご覧ください。※<http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=117609>

「確かな学力」の達成度

● 児童 ■ 保護者 ▲ 教職員



保護者の「言葉づかい」と「読書」の項目における達成度がとても低くなっています。家庭では、本を読んでいない現状がうかがえます。

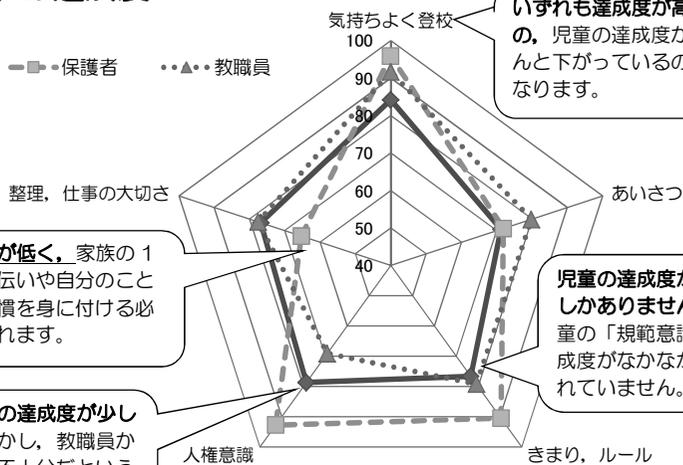
教職員の達成率がほぼ80%に対し、児童の達成率がほぼ70%と差が見られます。これは、教職員が感じている以上に児童ができていないと感じていることを表しています。評価が適切に児童に伝わっていないことも一因だと考えられます。

教職員と児童との間に特に差がありました。子どもたちは、積極的な授業参加ができていないと感じているようです。

教職員は学力定着に向け、わかる授業の構築を目指して取り組んでいます。

「豊かな心」の達成度

● 児童 ■ 保護者 ▲ 教職員



いずれも達成度が高いものの、児童の達成度がだんだんと下がっているのが気になります。

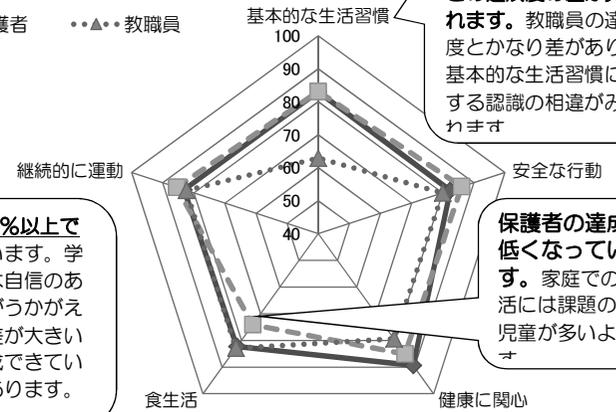
家庭での達成度が低く、家族の1員として家の手伝いや自分のことは自分でする習慣を身に付ける必要があると思われます。

児童の人権意識の達成度が少し伸びました。しかし、教職員から見ると、まだ不十分だという見方です。

児童の達成度が75%しかありません。児童の「規範意識」の達成度がなかなか改善されていません。

「健やかな体」の達成度

● 児童 ■ 保護者 ▲ 教職員



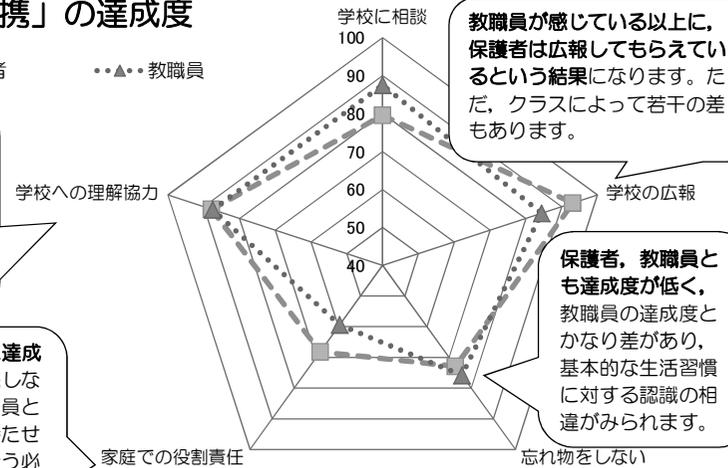
児童の達成度がすべて80%以上で高いという結果になっています。学習面とは違って体力面では自信のある児童が多いということがうかがえます。ただ、教職員との差が大きい項目もあり、すべてが達成できているとは言い難い状況でもあります。

児童、保護者と教職員との達成度の差が見られます。教職員の達成度とかなり差があり、基本的な生活習慣に対する認識の相違がみられます。

保護者の達成度が低くなっています。家庭での食生活には課題のある児童が多いようです。

「家庭との連携」の達成度

■ 保護者 ▲ 教職員



学校への理解協力の達成度が高まってきています。よい傾向が見られています。さらに連携を深めていきたいと思っています。

教職員が感じている以上に、保護者は広報してもらえているという結果になります。ただ、クラスによって若干の差もあります。

保護者、教職員とも達成度が低く、教職員の達成度とかなり差があり、基本的な生活習慣に対する認識の相違がみられます。

教職員、保護者ともに達成度が低く、家庭と連携しながら、児童に家族の一員としての自覚や責任を持たせるような働きかけを行う必要を感じます。

全体を通して（今後の改善策）

- 学習面において、めあてを明確にし、達成感を味わわせたり、児童が自分の成長を振り返ったりする機会を多く持ち、自分を評価する場を充実させていきたいと思っています。また、学習に対する興味関心を高めるための工夫を探っていく必要があります。
- 心と体において、項目によって大人と認識の差がみられる項目もありました。子どもの中での判断の基準もあいまいなものになっているのかも知れません。機会あるごとに生活態度も振り返るようにしていきたいと思っています。
- 明確な課題となっている「あいさつ」と「規範意識」については、教職員と保護者、地域との連携により重点的に取り組んでいきたいと思っています。



平成25年度の久我の杜小学校を振り返って

平成24年度の取組を充実・発展させる形で25年度の取組が始まりました。今年度は、1月に研究発表会を開催し、学習の取組の成果を発表した年でもありました。取組はまだまだ継続中であり、「継続は力さら」に発表させていただきます。「継続は力なり」。歩みを止めることなく前に進んでいきます。裏面に後期の学校評価の結果を載せています。全校体制で取り組んだ学力や人権についての成果は、十分とはいえませんが、少しずつ前進しています。



新年度の文具類の準備についてお願い

本校では算数ノート、計算ドリル用ノート、漢字練習ノートの3冊については、学校全体で統一し、1冊目は預かり金で購入しています。したがって、4月には新しいノートを配布することになりますので、新しく購入していただく必要はありません。※2冊目以降は、同じ様式のものをご用意ください。また、学校で購入することもできます。そして、ノート以外の文具類につきましても、学校での学習にふさわしい文具類として、右記のように、新入学児童に伝えていきます。学習に適した文具は、集中力を高め、学力の向上につながります。どうかご理解、ご協力いただきますようお願いいたします。

新入学児童に購入を依頼している文具

- ・筆箱…箱形(鉛筆が1本ずつ入れられ、キヤップがいらないもの)、扱いやすく簡素
- ・鉛筆…5～6本、赤鉛筆1本
- ・下敷き…写真や絵のない無地
- ・消しゴム…しっかり消せるもの、色、におい、形に気をとられないもの



お金のしほ

学校納入金振替日のご案内(3月10日)
今月は、3月10日(月)が振替日となっています。3月7日(金)までの振込をお願いします。※2年、4年生はインフルエンザによる学級閉鎖のため、クラスにより若干金額が異なります。

学年	給食費	学費(費立替)	合計
1, 2年	2,840円	0円	2,840円
3, 4年	3,520円	0円	3,520円
5, 6年	4,300円	0円	4,300円

日曜校時	3月の主な行事	PTA・地域	課外
1 土	土曜学習(3, 5年) 支部部活動サッカー交流会		
2 日			
3 月	A' 朝会 ALT 委員会 体重測定(5年)		*
4 火	A 体重測定(6年) ALT		きらきら(低)
5 水	A スクールカウンセラー 体重測定(4年)		部活動
6 木	B 体重測定(3年) 町別児童会	地域委員会	*
7 金	A 6年生を送る会		部活動(閉講)
8 土	教職員会議のため、5時間全学年が終了します。		
9 日			
10 月	A' 5時間授業 読書振替日 体重測定(1年) 制服納品		シートが敷かれ、体育館が使用できなくなります。
11 火	A 体重測定(2年) 体育館シート敷き		きらきら(低)
12 水	A 学校保健会	PTA企画	*
13 木	B 読み聞かせと図書ボランティア		きらきら(高)
14 金	A 読み聞かせ 学校安全日	神川中学卒業式 まなび終了	*
15 土			
16 日			
17 月	A		卒業式の準備のため、B校時となり、5年生以外は5時間以下校します。
18 火	A		
19 水	B スクールカウンセラー 給食終了 大掃除 卒業式準備		*
20 木	特 卒業式	10時間開式です。在校生代表として、5年生が出席します。1, 2, 3, 4年生は自宅学習です。	
21 金	春分の日		
22 土			
23 日			
24 月	A 修了式 ※4時間授業、12時頃下校		*
25 火	春休み開始 ※4月7日(月)まで		*
26 水	新登校班班長集合 10:00～		*
27 木			*
28 金	離任式		*
29 土			
30 日			
31 月			*

最近の学校の様子から～がんばってます！久我の杜っ子！

都大路を走りまわりました～大文字駅伝大会～

2月9日(日)第28回京都市小学校「大文字駅伝」大会が行われ、本校の児童も都大路を駆け抜けました。伏見西支部予選を勝ち抜いてから、ほぼ毎日朝練習や放課後練習に取り組んできました。タイムも予選会より伸びてきました。結果は48チーム中、26位でしたが、児童たちは今持てる力を出し切ることができました。ご声援ありがとうございました。



大文字駅伝スタート!

演劇部が公演を行いました。

2月8日(土)演劇部は Kyoto 演劇フェスティバルに出演しました。緊張しているはずの部員達でしたが、その演技は堂々とし、自信に満ち溢れていました。体に染み付いた演技は、緊張や不安で崩れることはありませんでした。公演後、たくさんのお褒めの言葉を頂くことができました。見に来てくださった皆さん、ありがとうございました。



演劇部の公演

大なわ大会を行いました。

2月13日から3日間にわたり、大なわ大会を行いました。どのクラスもこの大会に向けて練習に取り組んできました。5分間でどれだけ跳べるかを競いました。400回を超える驚異的な記録を作ったクラスもありました。クラスがまとまる良い経験になったようです。



大なわ大会の様子

気分は中学生!?～中学体験教室(6年)

2月20日(木)の午後、6年生は神川中学で、実際に中学の先生の授業を受けたり、生徒会の中学校紹介を聞いたりして、中学生気分を味わうことができました。子どもたちは、戸惑いながらも、新しく始まる中学生活に期待に胸を振らまらせているようでした。



中学校体験の様子

4月当初の主な行事…8日(火)着任式・始業式・入学式、11日(金)給食開始

学校評価の結果を振り返って

学校評価〔後期〕結果の考察と改善策

冬休み前後に実施した学校評価の結果をまとめましたので、お知らせします。グラフの数値で使っている達成度は、「わからない」をのぞいて、「よくできている」、「だいたいできている」を合わせたものです。なお、各項目の詳しい数値につきましては、ホームページ上に公開しておりますので、そちらをご覧ください。※<http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=117609>

「確かな学力」の達成度

● 児童 ■ 保護者 ▲ 教職員

基礎基本の学力
児童、教職員の達成度が前期より高いという結果になっています。

授業態度
保護者の達成度が前期より高いという結果になっています。

家庭学習
教職員と児童・保護者の達成度の差が前期より大きくなっているという結果になっています。

教職員は校内研究を深め、基礎基本の学力の定着に向けて更なる取組を進めています。

「確かな学力」の達成度を見ると、全体的に、教職員の達成度に比べ、児童・保護者の達成度が低くなっています。学校の取組やさまざまな評価などにより、「分かるまで頑張ろうとする」児童が増えたことは大きな成果と言えます。

「豊かな心」の達成度

● 児童 ■ 保護者 ▲ 教職員

気持ちよく登校
児童の達成度が前期より若干高いという結果になっています。

あいさつ
児童の達成度が前期よりも高いという結果になっています。

きまり・ルール
児童の達成度が前期よりも低いという結果になっています。

人権意識
児童の達成度が前期よりも低くなり、教職員は前期より高いという結果になっています。

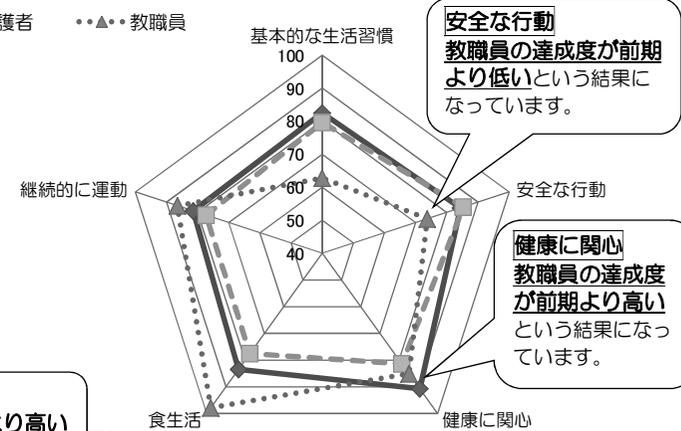
「気持ちよく登校」、「あいさつ」する児童が増えました。「あいさつ運動」などの取組の成果が表れています。しかし、その一方、「人権意識」、「きまり・ルール」については学校の取組が児童には十分反映されていない結果となっています。

「健やかな体」の達成度

● 児童 ■ 保護者 ▲ 教職員

「食生活」において、学校の食に関する指導が家庭において十分生かされていないことがうかがえます。「安全な行動」においては教職員と児童との間に意識の差が見られ、児童が自ら

基本的な生活習慣
教職員の達成度が前期より高いという結果になっています。



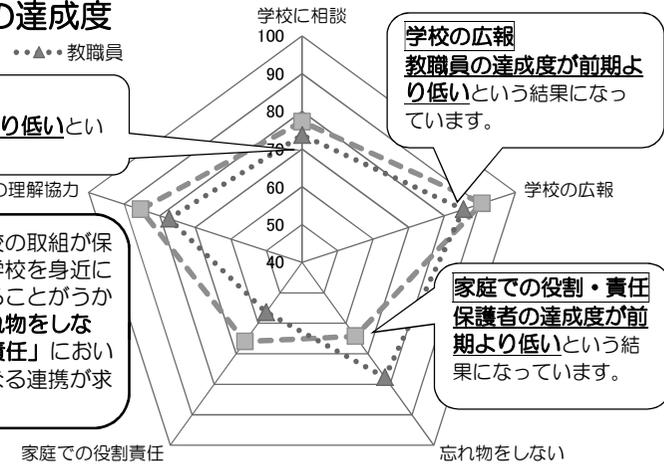
「家庭との連携」の達成度

■ 保護者 ▲ 教職員

学校に相談
教職員の達成度が前期より低いという結果になっています。

学校の広報
教職員の達成度が前期より低いという結果になっています。

教職員が思う以上に、学校の取組が保護者に伝わり、保護者が学校を身近に感じ、学校に協力していることがうかがえます。しかし、「忘れ物をしない」、「家庭での役割・責任」においては達成度が低く、さらなる連携が求められます。



全体を通して（今後の改善策）

- 学校全体での研究の取組や「あいさつ運動」等により、少し改善が見られた項目があったことは成果でした。改善が見られた項目については、子どもや保護者の方の振り返りを大切にしながら、今後も継続・充実・発展させる形で取組を進めていきたいと思います。
- 「人権意識」や「規範意識」については、SSTや人権集会などの取組が十分に反映されているとは言い難い結果となりました。道徳教育、人権教育が学校生活の中の基盤となり、実践できる力となるよう見直し、検討していく必要を感じます。そして、他人とつながる喜びを味わわせたり、他人を思いやる心を育てたり、規範意識を育むための取組を推進したりしていきたいと思います。また、児童自らが気づき、考え、実践できる指導を意識して取り組んでいきたいと思います。学校と家庭と地域とで、その取組や児童の状況について情報を共有し、さらに連携を深めていきたいと思います。

平成25年度 学校評価実施報告書

1 平成25年度 重点評価項目

・基礎基本の学力の定着 ・きまりやルールを守ろうとする態度の育成

2 1回目評価

2-① 自己評価 【 評価日 : 7月16日～7月19日

評価者・組織(名称) : 学校評価委員会

】

	分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1	確かな学力	基礎基本の学力 授業態度 家庭学習 読書 言葉づかい	アンケート・ジョイントプログラム・全国学力調査 教職員・保護者・児童アンケート 教職員・保護者・児童アンケート 教職員・保護者・児童アンケート 教職員・保護者・児童アンケート	・児童の達成度が全ての項目で70%前後である。教職員が感じている以上に児童ができていないと感じている。評価の基準が正確に児童に伝わっていないことも考えられる。 ・家庭において、本を読んでいない、言葉遣いに留意していないという状況がうかがえる。 ・児童は、積極的な授業参加ができていないと感じてい	・学習面において、児童に達成感を味わわせたり、児童が自分の成長を振り返ったりする機会を多く持ち、自分を評価する場を充実させていくことが必要だと感じる。 ・学習に対する興味関心を高めていきたい。
2	豊かな心	気持ちよく登校 あいさつ きまりやルールを守る 人権意識 整理・仕事の大切さ	教職員・保護者・児童アンケート 教職員・保護者・児童アンケート 教職員・保護者・児童アンケート 教職員・保護者・児童アンケート 教職員・保護者・児童アンケート	・家族の一員として家の手伝いや自分のことは自分でする習慣を養う必要がある。 ・気持ちよく登校している児童の割合が若干ではあるが、減少傾向が見られる。 ・児童の規範意識の改善がなかなか見られない。 ・児童の人権意識がわずかに上がっている。	・心と体において、項目によって大人と認識の差がみられる項目もあった。子どもの中での判断の基準もあいまいなものになっているのかも知れない。子ども自身が明確な基準を持てるように働きかけることも大切だと思う。そのための教職員の共通理解も必要である。 ・長期休業明けなどに行う「生活点検」など、機会あるごとに生活態度も振り返ることで自分の生活を見つめ直すようにしていきたい。
3	健やかな体	基本的な生活習慣 安全に気をつける 健康に関心を持つ 望ましい食生活 継続的な運動	教職員・保護者・児童アンケート 教職員・保護者・児童アンケート 教職員・保護者・児童アンケート 教職員・保護者・児童アンケート 教職員・保護者・児童アンケート	・児童の達成度が全般的に高く、体面で自信のある児童が多いといえるが、教職員の評価とは開きのみられる項目もあり、全てが達成されているとは言い難い状況である。 ・基本的な生活習慣において教職員の評価と児童・保護者の評価に差が見られた。 ・家庭における食生活に課題が目られる割合が高い。	
4	家庭との連携	学校に相談 学校の方針や様子の広報 忘れ物について 家庭での役割・責任 学校への理解・協力	教職員・保護者アンケート 教職員・保護者アンケート 教職員・保護者アンケート 教職員・保護者アンケート 教職員・保護者アンケート	・学校への保護者の理解や協力の達成度が高まってきている。 ・家庭と連携しながら、児童に家族の1員としての自覚や責任を持たせるような働きかけを行う必要を感じる。 ・教職員が感じている以上に、保護者は広報してもらっているという結果が見られた。	・教職員と保護者との連携において、良好な関係が築かれつつある。日頃の連絡や連携などを積み上げていく中で築かれるものであることに留意しながら、さらに、連携を深めていきたいと考える。

2-② 学校関係者評価 【 評価日 : 9月17日

評価者・組織 : 学校運営協議会 , ○学校評議員 (いずれかに○) 】

評価結果	改善に向けた支援策
<p>・登下校中での地域委員さんや地域の方へのあいさつの仕方や声の大きさが気になる。具体的にあいさつの方法を教えていかなければならないのではないかな。</p> <p>・学校のきまりを守らず、危険なことをしたり、人に迷惑をかけたたりしていることもある。きまりを守ろうとする規範意識を高める必要性を感じる。</p>	<p>明確な課題となっている「あいさつ」と「規範意識」については、教職員と保護者、地域との連携によりそれぞれが取り組めることを明確にして、重点的に取り組んでいきたい。</p> <p>・教職員の登校指導を充実させるとともに、児童会の取組を計画している。</p> <p>・SST(ソーシャルスキル・トレーニング)の授業を契機とし、習慣化、一般化するまで指導を継続する。</p>

3 2回目評価

3-① 自己評価 【 評価日 : 2月6日

評価者・組織(名称) : 学校評価委員会 】

分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1 確かな学力	基礎基本の学力	アンケート・(ブレ)ジョイントプログラム・研究会テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・「確かな学力」の達成度(「よくできている」と「だいたいできている」と合わせた割合)を見ると、全体的に、教職員の達成度に比べ、児童・保護者の達成度が低くなっている。学校の算数科を核とした研究の取組や通知票やさまざまなテストによる評価などを振り返ることにより、「分かるまで頑張ろうとする」児童が増えたことは大きな成果と言える。 ・低学年においても、下位層が占める割合が高く、その子たちに焦点を当てた手立てが課題となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の主体的な活動を中心とした授業の構築を図る。 ・算数タイムやきらきらタイムなどの課外学習の充実を図る。 ・読書の取組と国語科との関連を深めるとともに、家庭にも広がるように取組を充実させていきたい。 ・小中連携した家庭学習の取組に着手したところだが、有効に機能するよう粘り強く家庭に働きかけていきたい。
	授業態度	教職員・保護者・児童アンケート		
	家庭学習	教職員・保護者・児童アンケート		
	読書	教職員・保護者・児童アンケート		
	言葉づかい	教職員・保護者・児童アンケート		
2 豊かな心	気持ちよく登校	教職員・保護者・児童アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョイントプログラムの質問項目「他人の気持ちがわかりたい」が、昨年度よりも上昇が見られた。 ・「気持ちよく登校」、「あいさつ」する児童の割合が増えた。「あいさつ運動」などの取組の成果が表れている。 ・「人権意識」、「きまり・ルール」については学校の取組が児童には十分反映されていない結果となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校で、人権作文や人権集会を行ったりする取組を継続するとともに、人権教育が基盤となるような学校経営、学年経営、学級経営を心掛けるよう教職員の研修を深めていきたい。 ・道徳の授業の充実を図り、SST(ソーシャルスキル・トレーニング)の取組と心気面と合わせて、取組を継続していくことで道徳的実践態度の育成を図りたい。
	あいさつ	教職員・保護者・児童アンケート		
	きまりやルールを守る	教職員・保護者・児童アンケート		
	人権意識	教職員・保護者・児童アンケート		
	整理・仕事の大切さ	教職員・保護者・児童アンケート		
3 健やかな体	基本的な生活習慣	教職員・保護者・児童アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の自己評価が最も良かったが、教職員、保護者との間に意識の相違が見られ、十分だとは言えない状況にある。 ・「食生活」において、学校の食に関する指導が家庭において十分生かされていないことがうかがえる。 ・「安全な行動」においては教職員と児童との間に意識の差が見られ、児童の安全に対する認識を高める指導と児童が自ら考える安全指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健やかな体の育成に向けて、児童に具体的な目標やめあてを持たせ、それが達成できたかどうかを振り返らせたい。児童と教職員、保護者とで達成基準を共有することで意識の相違は解消されるのではないかな。 ・安全面については、引き渡し訓練を実施し、職員だけでなく、保護者の意識も高めることが出来た。今後は、児童が自分で判断し、行動できるように安全指導を充実していきたい。
	安全に気をつける	教職員・保護者・児童アンケート		
	健康に関心を持つ	教職員・保護者・児童アンケート		
	望ましい食生活	教職員・保護者・児童アンケート		
	継続的な運動	教職員・保護者・児童アンケート		
4 家庭との連携	学校に相談	教職員・保護者アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が思う以上に、学校の取組が保護者に伝わり、保護者が学校を身近に感じている。 ・保護者が学校に協力しているという意識が高まってきている。 ・「忘れ物をしない」、「家庭での役割・責任」においては達成度が低く、さらなる連携が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものために、学校と協力し合っていくとする保護者の割合が増加傾向にある。学校から様々な取組の様子や児童の実態についての情報を滞ることなく発信することを心掛けたい。 ・保護者に伝えるだけの関係でなく、保護者の思いや考えを受け止めることで、さらに信頼関係を築いていきたい。
	学校の方針や様子の広報	教職員・保護者アンケート		
	忘れ物について	教職員・保護者アンケート		
	家庭での役割・責任	教職員・保護者アンケート		
	学校への理解・協力	教職員・保護者アンケート		

3-② 学校関係者評価 【 評価日 : 3月12日

評価者・組織 : ○学校運営協議会 , 学校評議員 (いずれかに○) 】

評価結果	改善に向けた支援策
<ul style="list-style-type: none"> ・研究発表会に多くの参観者を招くことができたのは、学校にとって子どもたちにとってよい刺激となった。ぜひ継続させてほしい。 ・あいさつの取組については、児童会にが中心となり、学校でがんばっているのはわかるが、家庭でのあいさつがなされているのか。保護者への働きかけも必要である。 ・「規範意識」は中学生も含めて、この地域の課題である。地生連を中心に今後も学校と連携して取り組んでいきたい。 ・今年度学校運営協議会が発足し、今まで以上に学校と地域とが結びつき、この地域の活性化を図っていききたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「人権意識」や「規範意識」については、SSTや人権集会などの取組が十分に反映されているとは言い難い結果となった。道徳教育、人権教育が学校生活の中の基盤となり、実践できる力となるよう見直し、検討していく必要を感じる。そして、他人とつながる喜びを味わせたり、他人を思いやる心を育てたり、規範意識を育むための取組を推進したりしていきたいと思う。

4 総括・次年度の課題

- ・学校全体での研究の取組や「あいさつ運動」等により、少し改善が見られた項目があったことは成果だった。改善が見られた項目については、子どもや保護者の方の振り返りを大切にしながら、今後も継続・充実・発展させる形で取組を進めていきたい。
- ・児童自らが気づき、考え、実践できる指導を意識して取り組んでいきたい。また、保小中と家庭と地域とで、その取組や児童の状況について情報を共有し、さらに連携を深めていきたい。

学校評価のねらい

学校評価は自己評価（内部）と学校関係者評価の相互作用の中で教育活動の充実を図ることにねらいがある。自己評価は学校教育目標の実現を目指し、生徒の姿に現れた具体的成果・課題をもとに、学校自らが取組の継続的かつ迅速な点検・見直しを行うために実施するものである。

学校関係者評価は学校が行った自己評価に客観性を持たせるとともに、保護者・地域の方などの学校の教育活動に対する関心を高め、同時に熱意と責任ある評価により、それぞれの果たすべき役割を再認識し、双方向に連携することで生徒にとってよりよい教育環境を作り上げるために行うものである。

		評価の検討と実施	学校評議員の会	公表の時期と方法
中 間 年 間	4	教育指導計画書の作成	学校評議員の会発足	学校だより（教育方針の発信）
	5	学校評価の実施に向けた企画 評価項目の検討	学校評議員の会 学校教育方針の説明	評価年間計画をHPに公表
	6	休日参観 保護者アンケート		
	7	生徒アンケート 保護者アンケート 前期自己評価の実施		
	8			
	9	評価結果の分析(評価委員会・分掌会) 後期方針の検討(学年会・研修会)	学校評議員による 評価の実施	
	10	地域の方へのアンケート		学校だより、HPで結果・改善策を公表
	11			
	12	児童生徒アンケート 保護者アンケート 年間自己評価の実施		
	1	評価結果の分析(評価委員会・分掌会)	学校評議員による 評価の実施	
	2	改善策の検討(学年会・研修会)		
	3	次年度の方針の共通理解	学校評議員の会 次年度の方針を説明	学校だより、HPで結果・改善策を公表

神 川 教 育

1 教育方針

(1) 『こころの教育』の充実

人間づくりの基盤であり、教育活動の土台となるものとして、「道徳の時間」を中心にすえた「こころの教育」を充実させる。生徒の心の状態をよくすることによって、「学ぼう」という意欲・関心も高まり、指導に対して吸収する力も増し教師の指導が受け入れやすくなる。また、「如何に生きるべきか」「よりよい生き方とは」を考えさせ、自分や他者、社会事象や物事をしっかり見つめさせることによって、「しっかり考え、正しく判断し、行動のとれる生徒」を育成する。

(2) 『学力をつける』

よりよい社会の実現を目指すために、また、自らの人間性を高め、進路を切り拓き、これからの社会を生き抜くために、学力をつけていくことは非常に大切なことである。そのためには、教師一人一人がすべての生徒に学力をつけられる力量を持ち、学力が身につく学習指導を行う。

(3) 『健康保持、体力向上、よりよい生活習慣』の確立

「学力」や「心」の支えとして、非常に重要な内容であり、必要不可欠なことがあることを認識し、教育活動を行う。この内容が弱かったり、不十分であったりすると健全な心は育ちにくく、学習に向かう姿勢や状態が確立できない。健康的な生活の維持やよりよい生活習慣をつくっていける生徒を育成する。

以上の取組をすすめていくために、これまで本市で培ってきた教育理念である「一人一人を大切にす教育」と、道徳教育の理念である「よりよい生き方を考えさせる教育」の視点を本校教育のすべての教育活動に根付かせたものにしていくことが大切であると考ええる。

これらの教育の営みを通して、本校の生徒に「神川の生徒でよかった」「神川を卒業できてよかった」と思わせる学校を、また、本校教職員が「自分の子どもも、神川に行かせたい。神川の教育を受けさせたい。」「自分の子どもも、この先生に教えてもらいたい」と思える学校づくりを行う。

そして、生徒、保護者、地域から信頼される学校づくり、また、教職員がやりがいを持って働くことができ、「チーム神川」のチーム力が発揮できる職場の学校をみんなで創っていききたい。

2 教育目標 『^{あい}「愛」と^{まなび}「学」と^{こころざし}「志」をもった生徒を育てる』

- 「愛」…自分や他者を愛する心，学校・地域を愛する心
豊かな感性と鋭い人権感覚
- 「学」…学びから逃げない，生涯学び続ける姿勢
- 「志」…「自己実現」や「よりよい社会の実現」に向けての意欲・決意

3 目指す生徒像 『^{あい}「愛」と^{まなび}「学」と^{こころざし}「志」をもった生徒』

- (1) 豊かな感性を持ち，命と人権を大切にする生徒
- (2) 目標を持って意欲的に学ぶ生徒
- (3) 自分の生き方を考え，自律して責任ある行動がとれる生徒
- (4) 集団の一員として仲間と共に考え協力して活動できる生徒
- (5) 体力を向上させ，健康で安全な生活が営める生徒

4 目指す学校像 『笑顔あふれる学校』

- (1) すべての人の人権が守られた，安心・安全な学校
- (2) 社会の規範（社会のルールは学校でのルール）を遵守した学校
- (3) 保護者・地域と強い信頼関係で結ばれた学校
- (4) 生徒が，誇りを持てる学校
- (5) 教職員自身が，自分の子どもを通わせたい学校

5 目指す教職員像 『深い生徒理解と自己変革ができる教職員』

- (1) 教育に携わる者としての志と責任感をもつ。
- (2) 一人ひとりの生徒の内面や背景をしっかりと理解し，生き方に迫る指導をする。
- (3) 謙虚に他者の意見にも耳を傾け，自らの姿勢を厳しく見つめ直し成長する。
- (4) 生徒にとって「社会で生きていくためのモデル」となる。
- (5) 本校の実態をしっかりと把握し，その課題の解決に向けて「チーム」として協働できる。

6 学校運営方針

- (1) 生徒・教職員すべての「安心・安全が保障された学校」にする。
- (2) 生徒・教職員ともに「学びから逃げない学校」にする。
- (3) 学校の組織力を高める（真の「チーム神川」を創り上げる）。
- (4) 小中一貫教育を推進し、連携をより深める。
- (5) 校務の効率的な遂行に努める。

7 今年度の重点課題

- (1) 「**確かな学力**」をつける。

「学ぼう」という意欲・関心を高め、これからの社会を生き抜くための学力をつけるとともに、数字に表れる結果としての学力をつける。そのためにも、言語活動を取り入れた「楽しい授業、よくわかる授業」を目指す。また、家庭との連携・協力をより強め、家庭学習の定着を目指す。

- (2) 「**豊かな心**」を育てる。

よりよい生き方を考えさせる教育の充実を図る。「道徳の時間」や「特別活動」「総合的な学習の時間」の取組・「人権学習の取組」や学級・学年づくり等を通して、豊かな心を育て、人間性を高めることを目指す。

8 具体的教育実践

上記「重点課題」に加え、下記の項目についても継続して取り組んでいく。

- (1) 「保護者や地域との信頼関係」をより確かなものにする。
保護者や地域と連携を図り、「開かれた学校」を目指す。
- (2) 「総合育成支援教育の充実」を図る。
総合育成支援教育の研究・実践を行い、すべての生徒の教育を保障する。
- (3) 「生徒会の活性化」を図る。
仲間を大切にし、協力して取り組む生徒集団の育成を目指す。
- (4) 「厳しさと愛情のある指導」に努める。
問題行動の早期発見、早期対応に努め、生徒対生徒や対教師に対する暴言や暴力等には、毅然とした態度で臨む。
- (5) 「キャリア教育」「性教育」の充実を図る。
- (6) 「部活動の充実・活性化」を図る。
たくましい体力と精神力、集団のつながりを大切にする部活動を目指す。
- (7) 「小中連携の取組」を充実させる。
- (8) 「常に美しく整備され、うるおいのある教育環境の学校」を目指す。

神川中学校の学校評価について

1 評価のねらい

- 「自己評価」と「学校関係者評価」の相互作用の中で教育活動の充実を図る。
 - ・ 「自己評価」は、学校教育目標の実現を目指し、生徒の姿に現れた具体的成果・課題をもとに、学校自らが取組の継続的かつ迅速な点検・見直しを行うために実施する。
 - ・ 「学校関係者評価」は、学校が行った自己評価に客観性を持たせるとともに、保護者・地域の方などの学校の教育活動に対する関心を高め、同時に熱意と責任ある評価により、それぞれの果たすべき役割を再認識し、双方向に連携することで生徒にとってより良い教育環境を作り上げるために実施する。

2 重点評価項目

- 学力が身につく学習指導
- しっかり考え正しく判断し、行動のとれる生徒の育成
- よりよい生活習慣の確立

3 評価手法

教職員・保護者・生徒・地域に対するアンケート調査を実施した。アンケート結果の他、全国学力学習状況調査や学習確認プログラムの結果や質問項目の内容、生徒会や学習会等での生徒の活動状況、小中一貫教育の取組状況等についても評価の判断材料として分析を行い、「学校評価実施報告書」を作成して教育委員会に報告するとともに、「学校評価支援システム」を活用し、ニーズ度の高い項目（重要度は高いが、実現度は低く認識されている項目）を示す形でアンケート結果をまとめ、学校だよりやホームページで公表した。

4 アンケート結果等による分析

(1) 家庭学習の習慣化と基礎学力の定着について

生徒アンケートと保護者アンケートの両方で、最もニーズ度が高かったのが「家庭学習の習慣化」であった。この点について、本校では学年主任が各教科の課題（宿題）を調整し、学年ごとに共通の「平日課題」に取り組みせ、後日、確認テストを行う形で家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図る取組を行っている。

また、文書読解力や語彙力、計算力など基礎的部分の補充のための放課後や夏季休暇中の課外学習講座を60時間設け、学校全体での計画的な実施により多くの生徒が参加する結果となり、学力の底上げを図ることができた。

アンケートでの「家庭学習の習慣化」についての実現度は、他の項目に比べると低い値となっているが、生徒・保護者ともに後期アンケートでの結果は向上しており、今後も取組を継続していく。

保護者に対しても、アンケート結果を掲載した学校だより（10月号、2月号）を配布し、学力の定着・向上のためには、家庭学習での授業の予習・復習の習慣化が不可欠であることを示している。

(2) 授業の改善と規範意識の向上について

家庭学習とともに生徒・保護者からのニーズ度が高かったのは「授業を集中して受けられること（生徒）」、「授業内での学力向上（保護者）」であった。本校では、教科会を中心に指導力の向上や授業改善を進めているが、アンケートや学力状況もふまえ、継続した取組が必要である。

また、規範意識の向上や基本的生活習慣の確立が、学力定着につながると考えている。規範意識については、生徒会とも連携し、多くの生徒がリーダーとなり活躍する場面を作る「リーダー育成」など意識的に取り組んでいる。教職員の指導においても、個人の資質だけではなく、学校全体として授業における規律の基準を統一し、全員が同じレベル・意識で授業を展開している。その他、生徒による遅刻ゼロ、ベル着運動を継続しており、学習に向かう環境づくりに取り組んでいる。

5 自己評価

学校評価実施報告書（43、44ページ）を参照

6 学校関係者評価

本校では、自己評価の結果をふまえ、学校評議員による学校関係者評価を実施している。

学校関係者評価では、「重点課題の『確かな学力』と『豊かな心』の二つを軸とした教育活動の充実・発展が必要である。」、「登下校のマナーや地域での過ごし方について苦情が多く、規範意識を高めるため家庭・地域・学校が一体となった指導が必要とされる。」、「地域懇談会や授業参観への参加が少ないので対策を考えたい。」、「学校だよりやホームページにより、学校の様子がよく分かる。」、「教職員はよく努力しているが、継続して頑張してほしい。」、「生徒・保護者からの信頼を得られる学校・教職員でなければならない。」、「地域交流演奏会や地域一斉クリーン活動などは中学校が地域と一体になって活動しており大変評価できる。」、「小中連携について、合同行事が充実してきており、今後学力向上の取組も進めていってほしい。」というご意見をいただいた。

また、改善に向けた支援策としては、「学校評議員の情報交換や評議員会の開催を活発にし、外部評価を学校運営に迅速に反映させていく。」、「授業参観や各種行事に多くの参加が得られるよう、評議員が地域への広報・啓発を積極的に進めていく。評議員自身もできる限り参加をし、そのつどの感想や意見を学校に伝えて、よりよい活動ができるよう支援に努める。」、「地域の声を学校に届ける役割を果たしていくことを一層進める」、「地域の人材活用が必要なときは、積極的に協力を。」といった提案をいただいた。

7 総括・次年度に向けた課題等

- 生徒・保護者・地域との信頼関係を築くため、教職員が高い志と自覚を持ち、自己変革、指導力の向上を図る。
- 学校が落ち着いた状態で日々の授業を行えるようにするため、家庭と協力しながら基本的生活習慣の確立をはかり、規範意識の向上や家庭学習の習慣化に努める。
- 小中一貫教育の充実と地域・家庭・学校の連携が進んできており、継続・発展させる。
- 大規模の利点を生かした取組を再点検して発展させ、具体化していく。

神中だより

あい まなび こころざし
「愛」と「学」と「志」

平成25年10月2日

No. 8

京都市立神川中学校

URL: <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/kamikawa-c>

Mail: kamikawa-c@edu.city.kyoto.jp

★合唱コンクール 9月20日(金)



	最優秀賞	優秀賞	優良賞
1年生の部	7組	1組	10組
2年生の部	1組	6組	3組・5組
3年生の部	12組	6組	7組・9組

審査員特別賞：14組

合唱コンクール 保護者アンケートから

- ・中学生という難しい年に各クラスよくまとめてがんばったと思います。来年も楽しみにしています。14組の演奏は感動しました。(1年)
- ・普段みられないような姿をみることができました。今後に生かされるといいですね!(1年)
- ・ステキな合唱を感激しましたが、保護者の私語が耳にさわり次回は・・・(1年)
- ・一生懸命がんばっている子供達、何度も練習したんだろうということが伝わってきて、親としてとても感動しました。観にきて良かった。(2年)
- ・1年生の時より、じょうずになっていました。合唱コンクールはいいですね。クラスがまとまって。選曲もよく、聞いていてうれしくなりました。ありがとうございました。(2年)
- ・皆、真剣に取りくんでいる姿を見て感動しました。観ている子どもも行儀が良かったです。(2年)
- ・子供は素晴らしかった。聴く側の親(大人)側には課題がある。(3年)
- ・各クラスとも難しい曲をいっしょうけんめい練習したのだな、という様子が伺われます。ハーモニーなんか私が在校した頃に較べて技術的向上が見受けます。私たちの時と違うのは「1位を取りたい」という気迫が足りないかな? なにせ3クラスしか無かったのでみんな必死でしたから。(3年)



★学校祭 文化の部 9月26日(木) 4限オープニング 27日(金) ステージ・展示



※学校祭のようすを、神川中学校ホームページにアップしています。

★生徒・保護者アンケートの集計

アンケートのご協力ありがとうございました。裏面に、集計結果を載せています。

校内で中間評価を行い、これまでの取組を総括し、今後の活動について検討しました。

10月は、一般下校 16:00
部活動終了 17:15
完全下校 17:30

10月 学校納入金(修学旅行費積立金)振替のお知らせ
引落日は、10月10日(木)です。入金をお願いします。
1年生:6,250円 2年生:6,250円(3年生は終わりました)

平成25年度 生徒アンケート（中間評価）集計

分析結果(ニーズ度の高い順に並べてあります)

質問文	重要度	実現度	ニーズ度 ▼
家庭学習の習慣が身についている	5.63	3.64	24.56
授業は集中して受けられる	5.95	4.31	21.94
先生に気軽に相談できる	5.28	3.89	21.71
規則正しい生活ができています	5.93	4.65	19.83
授業の内容はよく分かる	6.08	4.78	19.61
あいさつを積極的にしている	5.86	4.85	18.48
家族の一員としての役割を果たしている	5.90	4.96	17.94
学校の約束ごとやきまりを守っている	5.90	4.97	17.91
委員会活動・係活動に積極的に取り組んでいる	5.85	4.97	17.69
学校から配布のプリントは保護者に渡している	6.16	5.38	16.17
周りの人を大切にしている	6.49	5.57	15.80
学校に行くことが楽しい	6.01	5.70	13.84

数値の計算方法について

- 「とても重要である」/「とても出来ている」……………7
 「やや重要である」/「やや出来ている」……………5
 「あまり重要でない」/「あまり出来ていない」……………3
 「重要でない」/「出来ていない」……………1
 「わからない」……………「わからない」の割合のみ算出

ニーズ度の計算方法について

- 重要度 × (8 - 実現度)
 ニーズ度の最高ポイントは 49

実現度の高い順に並べると、以下のようになります。

上の項目から順に、「出来ている」割合が高いものになります。

順位	質問文	実現度
①	学校に行くことが楽しい	5.70
②	周りの人を大切にしている	5.57
③	学校から配布のプリントは保護者に渡している	5.38
④	委員会活動・係活動に積極的に取り組んでいる	4.97
⑤	学校の約束ごとやきまりを守っている	4.97
⑥	家族の一員としての役割を果たしている	4.96
⑦	あいさつを積極的にしている	4.85
⑧	授業の内容はよく分かる	4.78
⑨	規則正しい生活ができています	4.65
⑩	授業は集中して受けられる	4.31
⑪	先生に気軽に相談できる	3.89
⑫	家庭学習の習慣が身についている	3.64

平成25年度 保護者アンケート（中間評価）集計

分析結果(ニーズ度の高い順に並べてあります)

質問文	重要度	実現度	ニーズ度 ▼
家庭学習習慣の定着に努めている	6.39	3.67	27.63
子どもは自ら進んで学習している	6.63	3.86	27.48
授業内での学力向上に期待している	6.48	3.95	26.25
P T A活動には積極的に参加するようにしている	4.67	2.80	24.28
学校はひとりひとりを大切にされた教育活動を進めている	6.23	4.20	23.65
子どもの規範意識向上に努めている	6.24	4.43	22.30
子どもに家族の一員としての役割をつくるようにしている	6.35	4.54	21.98
保護者が学校に行きやすい雰囲気がある	5.52	4.39	19.92
早寝早起き朝ごはんなど、規則正しい生活習慣づくりに努めている	6.54	5.03	19.45
子どもとのふれあいや話し合いの時間を持つように心がけている	6.70	5.25	18.41
配布されるプリントは必ず見ている	6.42	5.21	17.93
子どもは学校に楽しく通っている	6.80	5.51	16.96

実現度の高い順

順位	質問文	実現度
①	子どもは学校に楽しく通っている	5.51
②	子どもとのふれあいや話し合いの時間を持つように心がけている	5.25
③	配布されるプリントは必ず見ている	5.21
④	早寝早起き朝ごはんなど、規則正しい生活習慣づくりに努めている	5.03
⑤	子どもに家族の一員としての役割をつくるようにしている	4.54
⑥	子どもの規範意識向上に努めている	4.43
⑦	保護者が学校に行きやすい雰囲気がある	4.39
⑧	学校はひとりひとりを大切にされた教育活動を進めている	4.20
⑨	授業内での学力向上に期待している	3.95
⑩	子どもは自ら進んで学習している	3.86
⑪	家庭学習習慣の定着に努めている	3.67
⑫	P T A活動には積極的に参加するようにしている	2.80

※家庭学習について

生徒アンケートの結果、「家庭学習の習慣が身についている」ことについて、「出来ている」割合が大変低い結果になっています。同時に、「重要である」と考える割合も高くない状況です。保護者アンケートでは、「家庭学習習慣の定着」は「重要である」と考える割合が比較的高い反面、「出来ている」割合が低いため、ニーズ度が高くなっています。

家庭学習の大切さを認識して、その習慣をつけていくことは、学力の定着・向上に不可欠です。ぜひ、これからの課題としていただきたいと思います。

神中だより

あい まなび こころざし
「愛」と「学」と「志」

平成26年2月28日

No. 12

京都市立神川中学校

URL: <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/kamikawa-c>

Mail: kamikawa-c@edu.city.kyoto.jp

★学校評価アンケートにご協力ありがとうございました。集計・分析結果です。

※重要度と実現度から、ニーズ度の高い順に並べてあります。

◎ ニーズ度の計算方法について

重要度 × (8 - 実現度)

ニーズ度の最高ポイントは 49

◎ 数値の計算方法について

「とても重要である」/「とても出来ている」……………7

「やや重要である」/「やや出来ている」……………5

「あまり重要でない」/「あまり出来ていない」……………3

「重要でない」/「出来ていない」……………1

「わからない」……………「わからない」の割合のみ算出

※すべての回答を平均した結果を表示しています。

生徒アンケート分析表

番号	質問文	重要度	実現度	ニーズ度
4	家庭学習の習慣が身についている	5.73	3.96	23.12
8	先生に気軽に相談できる	5.42	3.81	22.72
3	授業は集中して受けられる	6.31	4.54	21.84
2	授業の内容はよく分かる	6.40	4.59	21.81
9	規則正しい生活ができている	6.04	4.72	19.83
12	学校から配布のプリントは保護者に渡している	6.08	4.91	18.77
10	あいさつを積極的に行っている	6.01	4.91	18.57
5	委員会活動・係活動に積極的に取り組んでいる	5.70	4.88	17.78
11	家族の一員としての役割を果たしている	5.94	5.04	17.56
1	学校に行くことが楽しい	6.23	5.40	16.18
7	学校の約束ごとやきまりを守っている	6.09	5.38	15.95
6	周りの人を大切にしている	6.49	5.64	15.34

保護者アンケート分析表

番号	質問文	重要度	実現度	ニーズ度
3	授業内での学力向上に期待している	6.48	3.87	26.75
4	家庭学習習慣の定着に努めている	6.44	3.87	26.57
2	子どもは自ら進んで学習している	6.67	4.09	26.06
6	学校はひとりひとりを大切にされた教育活動を進めている	6.23	3.94	25.29
5	PTA活動には積極的に参加するようにしている	4.57	2.59	24.74
7	子どもの規範意識向上に努めている	6.18	4.32	22.76
11	子どもに家族の一員としての役割をつくるようにしている	6.34	4.69	20.97
9	早寝早起き朝ごはんなど、規則正しい生活習慣づくりに努めている	6.55	4.84	20.73
12	配布されるプリントは必ず見ている	6.39	4.88	19.94
8	保護者が学校に行きやすい雰囲気がある	5.39	4.31	19.88
10	子どもとのふれあいや話し合いの時間を持つよう心がけている	6.69	5.29	18.15
1	子どもは学校に楽しく通っている	6.78	5.41	17.55

※家庭学習について

生徒アンケートの結果、「家庭学習の習慣が身についている」ことについて、「出来ている」割合が大変低い結果になっています。同時に、「重要である」と考える割合も高くない状況です。保護者アンケートでは、「家庭学習習慣の定着」は「重要である」と考える割合が比較的高い反面、「出来ている」割合が低いため、ニーズ度が高くなっています。家庭学習の大切さを認識して、その習慣をつけていくことは、学力の定着・向上に不可欠です。ぜひ、これからの課題としていただきたいと思います。

平成25年度 学校評価実施報告書

(京都市立 神川中 学校)No.1

1 平成25年度 重点評価項目

<p>・学力が身につく学習指導</p>	<p>・しっかり考え正しく判断し行動のとれる生徒の育成</p>	<p>・よりよい生活習慣の確立</p>
---------------------	---------------------------------	---------------------

2 1回目評価

2-① 自己評価 【 評価日 : 平成25年8月26日 評価者・組織(名称) : 学校評価委員会 】

分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1 確かな学力	授業の改善	教職員・生徒アンケート、調査結果分析	平日課題の取組を全校的にすすめているが、家庭学習について、生徒・保護者ともにニーズ度をもっと高く、その習慣化・定着が重要な課題である。生徒アンケートで、「授業の内容はよく分かる」という設問に対して、実現度は低い状況にある。校内研究授業の実施により、指導力向上を図ることができたが、教科会を十分もつことができずその充実が課題とされる。	重点的・包括的支援をうけ調査研究をすすめ、学力の定着と定着を阻む阻害要因に対する組織的取組をすすめる。指導力の向上と授業改善をすすめていく。後期時間割編成で、時間内に教科会を設定し定期的に会合がもてるようにする。家庭学習の習慣を定着させていくために、学習課題を与える取組を続け、低位の生徒に対するフォローを続ける。
	家庭学習の定着	保護者・生徒アンケート		
	指導力の向上	研修会・研究授業の実施、教科会の充実		
2 豊かな心	なかまづくり	保護者・生徒アンケート、学級活動等	生徒指導部のテーマを「なかまづくり」とし、さまざまな活動の企画・実施のなかで、意識して取り組んでいる。リーダー育成は、生徒会本部を中心に成果がみられるが、たくさんの生徒がリーダーとなり取り組む機会をふやし積み重ねていくことを大切にしていきたい。道徳教育は全体計画・学年体制のなかで、計画的に道徳授業が展開できている。あいさつを積極的にしている生徒が増えてきている成果が、アンケートから伺えるが、全員ができるように取り組んでいく。	人権学習の指導展開に関しては、学年ごとに検討をすすめ、全体の研修会により深化させていく。道徳の授業は年間計画に基づいてすすめ、学年出前授業を実施して、充実を図る。リーダー育成については、よりよい集団づくりを根本に、たくさんの生徒が活躍できる機会を増やしていく。
	リーダーの育成	生徒会活動や学級活動の取組		
	豊かな心の育成	道徳教育・人権教育の実施状況		
3 健やかな体	よりよい生活習慣の確立	生徒・保護者アンケート、各種取組	「規則正しい生活ができているか」の設問に対して、生徒は実現度がやや低めであり、保護者は重要度が高い結果がでている。学校生活の安定の基礎となる生活習慣の確立の重要性を生徒により認識させていくことが求められる。部活動には多くの生徒が参加し、退部率も低い。試合で好成績を残す部も増え、充実した活動ができている。	生活委員会による遅刻0・ベル着運動などを教員が支え意識を高めていく。生活習慣の確立にむけた取組は、今後もあらゆる機会ですすめていく。部活動への期待は生徒・保護者とも高く、新チームの活動をキャプテン会議の開催から全校的に支援し、一層の活性化を図る。
	体力の向上	部活動の活動状況		
4 学校独自の取組	小中一貫教育の推進	合同研修会の実施、主任会の開催	神川ブロック(1中3小学校)での合同研修会を実施することができ、おおきく一歩を踏み出している。小中連携の主任会は定期的にもたれており、その拡大や充実が課題である。学校だよりの定期的な発行とHP更新により、情報発信はできているが、より充実させていく。総合育成支援教育は、支援教育部が機能して体制ができてきたが、個別指導の質的充実が課題にあがっている。	小中一貫教育の推進にむけて、連携主任会の充実を図り、具体的取組を実践し、神川ブロックでの学力向上を図る。講演会や授業参観などへの保護者出席を促す工夫を図る。地域交流演奏会など、中学校が地域同士をつなぐ役割を果たす取組を続けていく。
	家庭・地域との連携	保護者アンケート		
	情報発信の充実	学校だより、HPの発行・更新状況		
	総合育成支援教育の充実	生徒・保護者アンケート、取組状況		

2-② 学校関係者評価 【 評価日 : 平成25年9月20日 評価者・組織 : 学校運営協議会、学校評議員(いずれかに○) 】

評価結果	改善に向けた支援策
<p>学校教育目標を「愛と学と志をもった生徒を育てる」とし、新たな年を迎えた。学力の向上が重要な課題とされる。重点課題としている「確かな学力をつける」「豊かな心を育てる」を2つの軸にした、さまざまな教育活動の充実・発展が必要である。また、登下校時のマナーや地域での過ごし方について、苦情の声は多く、家庭・地域・学校が一体となった指導が必要とされる。地域懇談会や授業参観への参加が少ないので対策を考えたい。地域交流演奏会や地域一斉クリーン活動などの機会は、中学校や中学生の理解に役立っており、こうした取組の継続・充実に期待する。学校だよりやHPにより、学校の様子がよく判るので、継続して充実されたい。生徒・保護者・地域からの信頼を得られる学校・教職員でなければならない。</p>	<p>学校評議員の情報交換や評議員会の開催を活発にし、外部評価を学校運営に迅速に反映させていく。授業参観や各種行事に多くの参加が得られるよう、評議員が地域への広報・啓発を積極的に進めていく。評議員自身もできる限り参加をし、その都度の感想や意見を学校に伝えて、よりよい活動ができるよう支援に努める。</p>

3 2回目評価

3-① 自己評価 【 評価日 :平成26年3月6日

評価者・組織(名称) : 学校評価委員会 】

	分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1	確かな学力	家庭学習の習慣化 学力向上の取組 授業の改善・指導力の向上	保護者・生徒アンケート 教職員自己評価 自己評価・外部評価・生徒アンケート	家庭学習に関して、生徒・保護者とも実現度が低いという結果であり、学年体制で課題学習に取り組んできた。今後も工夫と継続が必要である。テスト前学習会や土曜学習会などの課外学習は、学校全体で計画的に実施することができ、参加者も多数にのぼった。学力実態の分析をすすめ、各教科で授業改善に努めた。	教科会の時間保障を図りながら充実させ、指導力の向上と授業改善をすすめていく。家庭学習の習慣を定着させていくために、学習課題を与える取組を続け、低位の生徒に対する個別指導をよりすすめる。学校全体として、学力向上をめざした研修をすすめ、具体的な取組を工夫していく。
2	豊かな心	道徳教育の取組 あいさつのできる生徒の育成 生徒会活動の活性化	自己評価・生徒アンケート 保護者・生徒アンケート・自己評価 活動状況・自己評価・外部評価	道徳の時間は、全体計画・学年体制のなかで、計画的に展開できた。学年で出前授業も実施、生徒の意欲も高まった。生徒指導部から「なかまづくり」のテーマが提示され、各種取組のなかで意識して活かすことができた。アンケートから、あいさつを積極的にしようとする生徒の意識向上が伺えるものの、全体的には不十分である。	あいさつについて、生徒会活動の指導も含めて、全校的に生徒・教職員が一体となり、あらゆる場面であいさつのできる生徒の育成を図り、家庭へのよびかけもよりすすめる。道徳の時間の授業の工夫や教材の開発にさらに努める。
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立 体力の向上	生徒・保護者アンケート・自己評価 部活動の活動状況	アンケートから「規則正しい生活ができているか」について、生徒は実現度がやや低めであり、保護者は重要度が高いが実現度は高くない結果がでている。部活動には多くの生徒が参加し、顧問も熱心に指導にあたっている部が多い。試合で好成績を残す部も増え、全体的には充実した活動ができている。	生徒による遅刻0・ベル着運動などの取組の継続と教職員の支えにより、生徒の意識を高めていく。学校だよりや学年だより、個別懇談会などを通じて、基本的生活習慣の確立の大切さを家庭に発信していく。部活動キャプテン会議の開催などを充実させ、部活動の一層の活性化を図る。
4	学校独自の取組	小中一貫教育の推進 総合育成支援教育の充実 情報発信の充実	合同行事の実施・内容、小中連携主任会 自己評価、生徒・保護者アンケート 学校だより、HPの発行・更新状況	小中4校の合同研修をはじめて実施することができた。9年間で子どもを育てる意識が教職員のなかで深まった。小中連携主任の定期的な情報交換と合同行事計画ができ、研修会や小学生参加行事が有意義に開催された。総合育成支援教育は、個別支援の必要な生徒への取組が充実し、教職員の認識も深まっている。個別指導の質的充実が課題とされる。	小中一貫教育の推進にむけて、連携主任会の充実を図り、1中3小の教職員全体の研修会の開催を続け、連帯意識を高め、具体的な取組を実践していく。学力向上を目指した取組をすすめる。授業参観などへの保護者出席を促す工夫を図る。

3-② 学校関係者評価 【 評価日 :平成26年2月18日

評価者・組織 : 学校運営協議会 学校評議員(いずれかに○) 】

評価結果	改善に向けた支援策
全体的には、落ち着いた学校生活が送れているが、登下校時のマナーや地域での迷惑行為について苦情の声は多かった。自転車通学や登下校の歩き方のマナーなど、規範意識の低い生徒が目立つようになった。課題として、学力の向上が第一にあげられる。また、毎日、教職員はよく努力しているが、継続して頑張してほしい。信頼をなくすような教職員の言動はなくさなければならない。「地域交流演奏会」や「地域一斉クリーン活動」などは、中学校や中学生が地域と一体となり活動して大変評価できる。こうした取組の継続・充実に期待する。小中連携について、合同行事の開催も充実してきており、今後学力向上の取組も進めていってほしい。	評議員自身もできる限り学校行等に参加をし、その都度の感想や意見を学校に伝えて、よりよい活動ができるよう支援に努める。地域の声を学校に届ける役割を果たしていくことを一層進める。地域の人材活用が必要なときは、積極的に協力し、学校と地域をつなぐ役割を果たしていき、学校と地域の連携が密になるよう協力していく。

4 総括・次年度の課題

生徒・保護者・地域からの信頼と深い信頼関係を構築し、学力向上を目標にしたさまざまな取組をすすめることがもっとも重要な課題である。そのためにまず、教職員が高い志と自覚をもち、自己変革、指導力の向上を図る。学校が落ち着いた状態で日々の授業をおこなえるようにするために、家庭と協力しながら生徒の基本的生活習慣の確立をはかり、規範意識の向上や家庭学習の習慣化に努める。また小中一貫教育の充実と地域・家庭・学校の連携を深めることがすすんできており、充実・深化の取組を継続発展させる。大規模の利点を生かした取組を再点検して発展させるとともに、いろいろな角度からの意見を出し合い集約し、具体化していく。

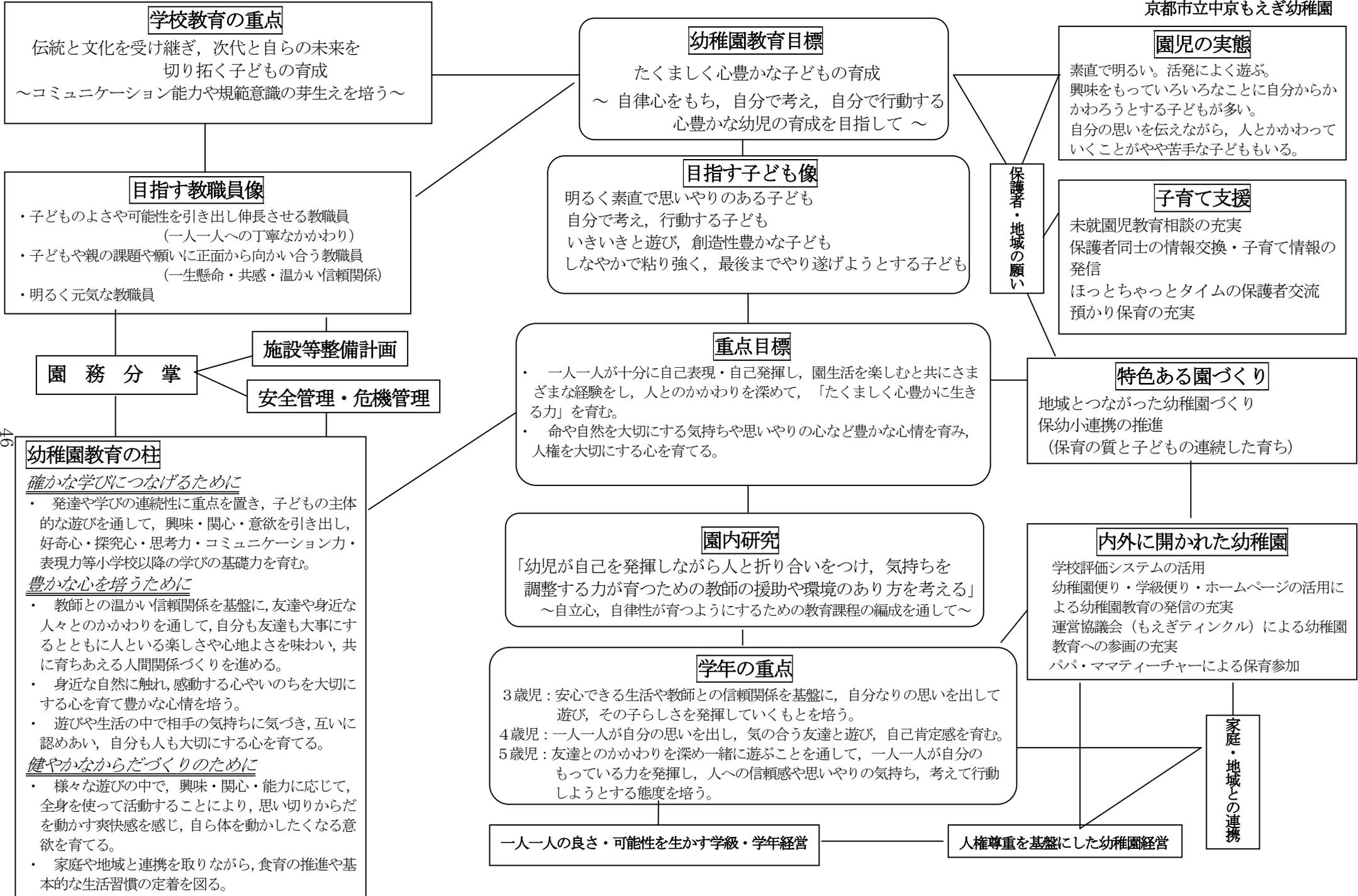
学校評価のねらい 園教育目標の達成、一人一人の子どもの確かな育ちに向けての課題の読み取りや指導の在り方を見直し、幼稚園教育の充実と教職員の指導力の向上を目指す。

～園児・保護者・地域・教職員がともに輝き育ちあう幼稚園づくりのために～

		評価の検討と実施	学校運営協議会 学校評議員の会	公表の時期と方法
中 間 年 間	4	教育指導計画書の作成 評価実施に向けた企画 評価項目の検討		園だより・PTAや地域の 会合・ホームページ更新な どで教育計画・経営方針・ 評価年間計画の公表
	5		第1回学校運営協議会 の開催 ・教育方針の説明等	
	6			
	7	前期自己評価の実施 学期末評価の実施		
	8	評価結果の分析と改善策についての話し合い		
	9			園だより・PTA会合・ホ ームページなどで、評価の 結果や改善策等を公表
	10		第2回学校運営協議会 の開催 ・学校運営協議会委員 による評価の実施	
	11	評価結果の分析と改善策についての話し合い		ホームページで前期自己評 価の結果と改善策を公表
	12			
	1			
年 間	2	年度末自己評価実施 次年度の方針の説明等	第3回学校運営協議会 の開催 ・学校運営協議会委員 による年度末評価の実 施 ・次年度の方針の説明	
	3			園だより・PTA会合・ホ ームページなどで、後期自 己評価の結果や改善策等を 公表

平成25年度幼稚園経営の基本構想

京都市立中京もえぎ幼稚園



学校教育の重点

伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を切り拓く子どもの育成
～コミュニケーション能力や規範意識の芽生えを培う～

目指す教職員像

- 子どものよさや可能性を引き出し伸ばさせる教職員 (一人一人への丁寧なかかわり)
- 子どもや親の課題や願いに正面から向かい合う教職員 (一生懸命・共感・温かい信頼関係)
- 明るく元気な教職員

施設等整備計画

園務分掌

安全管理・危機管理

幼稚園教育の柱

確かな学びにつなげるために

- 発達や学びの連続性に重点を置き、子どもの主体的な遊びを通して、興味・関心・意欲を引き出し、好奇心・探究心・思考力・コミュニケーション力・表現力等小学校以降の学びの基礎力を育む。

豊かな心を培うために

- 教師との温かい信頼関係を基盤に、友達や身近な人々とかかわりを通して、自分も友達も大事にするとともに人という楽しさや心地よさを味わい、共に育ちあえる人間関係づくりを進める。
- 身近な自然に触れ、感動する心やいのちを大切にする心を育て豊かな心情を培う。
- 遊びや生活の中で相手の気持ちに気づき、互いに認めあい、自分も人も大切にする心を育てる。

健やかなからだづくりのために

- 様々な遊びの中で、興味・関心・能力に応じて、全身を使って活動することにより、思い切りからだを動かす爽快感を感じ、自ら体を動かしたくなる意欲を育てる。
- 家庭や地域と連携を取りながら、食育の推進や基本的な生活習慣の定着を図る。

幼稚園教育目標

たくましく心豊かな子どもの育成
～ 自律心を持ち、自分で考え、自分で行動する心豊かな幼児の育成を目指して～

目指す子ども像

明るく素直で思いやりのある子ども
自分で考え、行動する子ども
いきいきと遊び、創造性豊かな子ども
しなやかで粘り強く、最後までやり遂げようとする子ども

重点目標

- 一人一人が十分に自己表現・自己発揮し、園生活を楽しむと共にさまざまな経験をし、人とかかわりを深めて、「たくましく心豊かに生きる力」を育む。
- 命や自然を大切にす気持ちや思いやりの心など豊かな心情を育み、人権を大切にする心を育てる。

園内研究

「幼児が自己を発揮しながら人と折り合いをつけ、気持ちを調整する力が育つための教師の援助や環境のあり方を考える」
～自立心、自律性が育つようにするための教育課程の編成を通して～

学年の重点

- 3歳児：安心できる生活や教師との信頼関係を基盤に、自分なりの思いを出して遊び、その子らしさを発揮していくもとを培う。
- 4歳児：一人一人が自分の思いを出し、気の合う友達と遊び、自己肯定感を育む。
- 5歳児：友達とかかわりを深め一緒に遊ぶことを通して、一人一人が自分の持っている力を発揮し、人への信頼感や思いやりの気持ち、考えて行動しようとする態度を培う。

一人一人の良さ・可能性を生かす学級・学年経営

人権尊重を基盤にした幼稚園経営

園児の実態

素直で明るい。活発によく遊ぶ。興味をもっているいろいろなことに自分からかかわろうとする子どもが多い。自分の思いを伝えながら、人とかかわっていくことがやや苦手な子どももいる。

子育て支援

未就園児教育相談の充実
保護者同士の情報交換・子育て情報の発信
ほっとちやっとタイムの保護者交流
預かり保育の充実

特色ある園づくり

地域とつながった幼稚園づくり
保幼小連携の推進
(保育の質と子どもの連続した育ち)

内外に開かれた幼稚園

学校評価システムの活用
幼稚園便り・学級便り・ホームページの活用による幼稚園教育の発信の充実
運営協議会（もえぎティンクル）による幼稚園教育への参画の充実
パパ・ママティーチャーによる保育参加

家庭・地域との連携

中京もえぎ幼稚園の学校評価について

1 評価のねらい

園教育目標の達成，一人一人の子どもの確かな育ちに向けての課題の読み取りや指導の在り方を見直し，幼稚園教育の充実と教職員の指導力の向上を目指す。

2 重点評価項目

- 自己発揮しながら人と折り合いをつけ気持ちを調整しようとする力の育成
- 基本的生活習慣を身につけ自立へ向かう基礎の育成

3 評価手法

教職員・保護者に対するアンケート調査を実施した。アンケート結果の他，園で取り組んでいる「自立心・自律性に関する研究保育」や「エピソード研修」での考察についても評価の判断材料として分析を行い，「学校評価実施報告書」を作成して教育委員会に報告するとともに，アンケート結果をまとめ，記述式での個別意見への回答も合わせて保護者向け文書やホームページで公表した。

4 アンケート結果等による分析

(1) 規範意識の育成について

本園では，子どもの自立心・自律性を育むため，「幼児が自己を発揮しながら人と折り合いをつけ，気持ちを調整する力が育つための教師の援助や環境のあり方を考える」というテーマでの研究を25年度から実施している。子どもたちが十分に自己実現・自己発揮するとともに，他者との関わりを深め，たくましく心豊かに育っていくため，「折り合い」，「気持ちの調整」に視点を据え，「困りの場面で幼児の心への寄り添い方」など，日常の様々な場面での教師の関わり方について考察し，指導や援助の方法や環境構成の検討に活かしている。

保護者アンケートからも「幼稚園生活を楽しんでいる」，「先生や友達に親しみを感じている」，「自分の力で様々なことをしようとしている」，「気持ちを言葉で伝えようとしている」，「家族や友達の話を知ろうとする」，「集団や社会生活でのきまりを守ろうとしている」といった項目に高い評価を得られている。

(2) 基本的生活習慣の定着について

保護者を対象とした，子どもの生活習慣についてのアンケートでは，「あいさつ」，「手洗い・うがい」，「朝ごはん」，「衣服の着脱」等について様子を書いていただき，家庭に対しても生活を振り返るきっかけとして情報発信している。「早寝・早起き」については約3割の家庭では十分できていないという回答であり，保護者からも反省の声があった。そのため，生活習慣の定着は子どもの意欲や自立の基礎となるという認識を共有したうえで，園と家庭の双方で習慣化を図っていくことを呼びかけている。

5 自己評価

学校評価実施報告書（60，61ページ）を参照

6 学校関係者評価

本園では、自己評価の結果をふまえ、学校運営協議会委員による学校関係者評価を実施している。

学校関係者評価では、「規範意識については中学生まで一貫して同じ意識を持ち、家庭・地域・学校園が取り組んでいくことが大事であろう。」「通学路の安全についても取り組みたい。」「保護者が園の取組に満足していることが感じ取れる。」「自分から先生に話しかけにくい保護者もいるので、個人懇談はあった方がよい。」「アレルギーや衛生面での配慮の一方で、体験を部分的に制限しないといけなことが増えている。今後さらに検討が必要である。」「子育て・就労支援としての預かり保育が今後の幼稚園教育においても大事になってくる。預かり保育の質を確保していくことも重要である。」というご意見をいただいた。

また、改善に向けた支援策としては、「小学校と相互に取組状況を伝え合い、研究発表会に参加し合うなど、教員の連携を深めていく。」「行事の位置付けを確認したり、精選したりしていくことで、子どもたちがより豊かな経験ができるようにする必要がある。」「未就園児に対しても家庭の教育の大事さや子育ての知恵などが伝えられる場を設けることができなにか。」「今後も学校運営協議会と幼稚園がしっかりと思いを共有し、様々に子供達にとって感動できる経験を計画していきたい。」「預かり保育についても、地域の人材を活用するなど、協力していきたい。」といった提案をいただいた。

7 総括・次年度に向けた課題等

○ 自己発揮・自己抑制・自立心に関する取組については、教員自身が子どもの発達の道筋をエピソードや研究保育から捉えることができ、研究発表会の参加者からも一定の評価をいただいた。今後も発信していきたい。

○ 子育て支援や行事に関しての情報発信をどのように進めていくのか、家庭・地域との連携をより深めながら具体的に取り組みを進めていきたい。

平成25年9月24日

保護者様

京都市立中京もえぎ幼稚園
園長 永本 多紀子

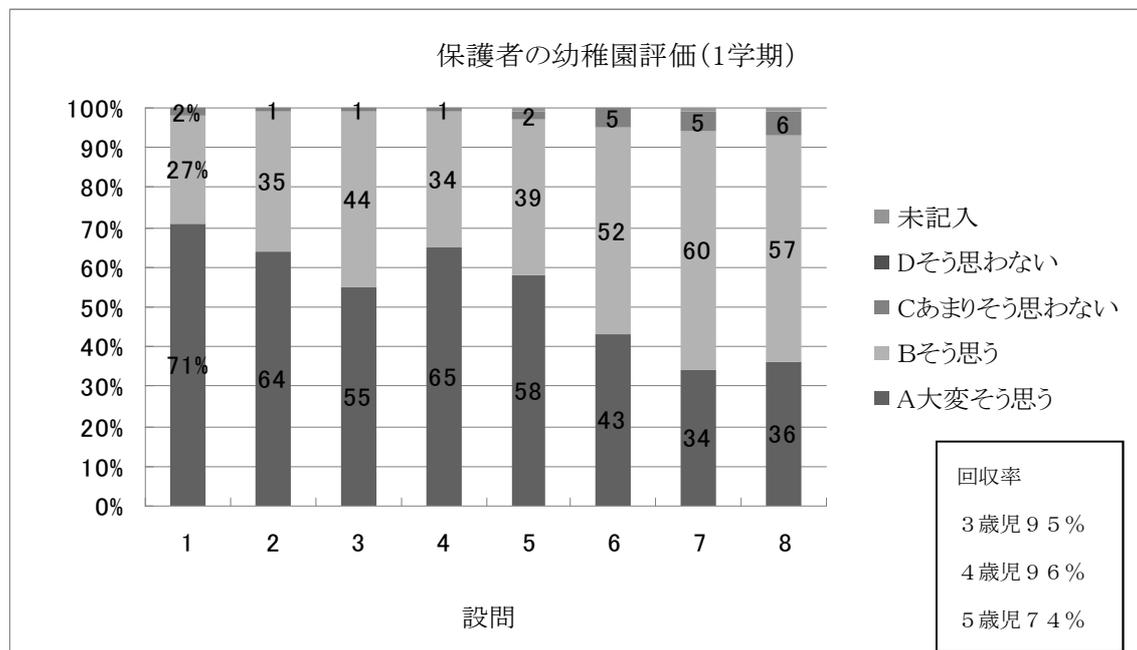
幼稚園評価の結果について

体を動かして遊ぶことが気持ちのいい季節になりました。子どもたちは公園の広いグラウンドで先生や友達と一緒にかけっこや、おにごっこ、リレーなど楽しんでいます。

さて、1学期末に幼稚園教育の評価のお願いをしたところ、大勢の方にご協力をいただきました。ありがとうございました。

2学期の始業式で少しふれさせていただきましたが、ここに、集計した結果をお知らせします。あわせて教職員自己評価の結果もお知らせいたします。中京もえぎ幼稚園の子どもたちが心豊かにいきいきと成長するために、これからも保護者の皆様と連携して、全力で頑張りたいと思っています。どうぞ、今後ともよろしく願いいたします。

1. 教育活動について



設問

- 1 お子さんは楽しんで幼稚園に通っていますか。
- 2 教職員は子ども一人ひとりに温かいかわりをしていていると思いますか。
- 3 幼稚園には子どもがいろいろな経験ができる環境（素材・材料・遊具など）が整えられていると思いますか。
- 4 教職員に話しやすい雰囲気がありますか。
- 5 お子さんは担任以外の先生にもサポートしてもらっていると感じますか。
- 6 幼稚園の遊びの様子がわかりますか。（日々の降園時の話や参観，ホームページなどから）
- 7 子どもの安全に配慮した教育活動（施設・遊具）を行うことができましたと思いますか。
- 8 園では外部からの不審者の侵入に対してやプールの管理体制など、安全対策をしていると感じましたか。

どの設問についても A「大変そう思う」、B「そう思う」を合わせて肯定的な回答が 90% 以上ありました。幼稚園、教育活動、教職員に対して温かい目で見られていることもわかり、大変うれしく思います。C あまりそう思わないと評価された方で、お名前を記名していただいている方に関してはできる限り個別に説明をさせていただきました。教職員、様々なご意見を受け止め今後に生かしていきたいと思えます。

各設問について学年ごとの特徴が見られたり、質問などがあつたりしたものは次のような項目です。

設問 5 お子さんは担任以外の先生にサポートしてもらっていると感じますか。

5 歳児が他の学年に比べて高い割合で「そう思う」と答えられています。中京もえぎ幼稚園では、子どもたちが好きな遊びを楽しむことを保育の中で大事にしています。そのため、担任以外の教職員みんなで、みんなの子どもを見ているという思いで子どもたちにかかわっています。5 歳児の保護者の方にはそのような思いをより理解していただいていると思われます。

設問 6 幼稚園の遊びの様子がわかりますか。(日々の降園時の話や参観ホームページなどから)

3 歳児が他の学年に比べて高い割合で「そう思う」と答えられています。3, 4 歳児は登降園が園庭からで、保育室が 1 階にあり、子どもの様子が見えやすいということが理由にあるようです。5 歳児についても安心していただくことができるように、日々の降園時などを利用して子どもの様子をお伝えしたいと思っています。思われることはどんな小さなことでもどうぞ遠慮なさらずにおっしゃってください。また、パパママティチャーに関して、「この取り組みは素晴らしいと思います。家では見られない子どもの姿がみれてうちの子はこんな子だったと改めて感じました。他の子もいきいきとして子どもらしい発想がとても楽しかったです」と、評価いただいています。3 歳児も 10 月からパパママティチャーを始める予定です。そのような機会を大事に、ご家庭と幼稚園と一緒に思いを同じくして子どもたちの成長を温かく見守っていききたいと思えます。

設問 7 子どもの安全に配慮した教育活動(施設・遊具)を行うことができたと思えますか。

設問 8 園では外部からの不審者の侵入に対してやプールの管理体制など、安全対策をしていると感じましたか。

この設問に対して各学年から「具体的にどのような配慮をしているのか」というご質問や「幼稚園の中のことなのでわからない」というご意見がありました。

平常時には日々の子どもへの指導、教職員による施設の安全点検を行っています。



子どもへの指導内容は、はさみなどの用具やジャングルジム・ブランコなどの遊具の安全な使い方、園外保育では道路の安全な歩き方、ものを投げない、友達を押ししたり叩いたりしないなど、様々なことが含まれています。教師は子どもの発達段階や学級の実態に合わせ、その場で具体的に、繰り返し知らせています。

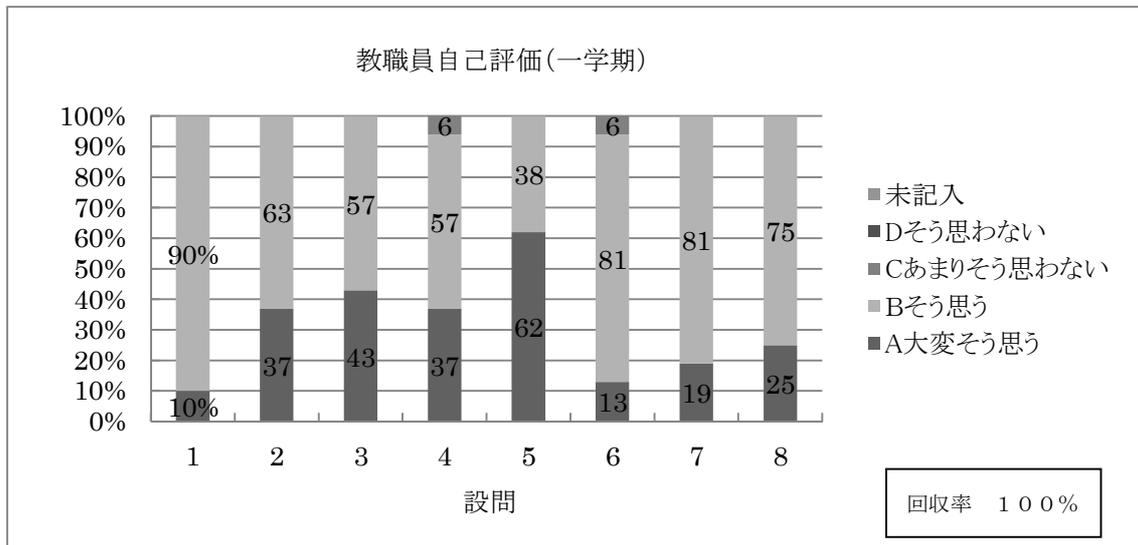
プール遊びではプールの中で共に活動する教員とプールの外から見守る教職員とにわかれるなど、できるだけ多くの教職員で管理体制をとるようにしています。プール内外での危険なことについても繰り返し指導して、自分で身の安全を守ったり、人の迷惑にならないようにしたりすることの大切さについて気づくことができるようにしています。ビート板の使用についても教員の管理の下にのみ使用するようにしています。

また、毎月15日を「安全指導日」として、学級全体で子どもにとって身近な安全について話す機会をもっています。施設・遊具については安全チェックリストに基づいて教職員が危険な個所を調べ、修理したり対応を考えたりしています。

このように安全・安心な環境を整えるとともに、子ども自身が危険に気づき、考えて行動できるような力を、遊びや生活経験を通して身につけてほしいと願っています。

さらに緊急時(地震・火災・不審者侵入)についてはマニュアルを作成し、子どもみらい館や消防署、警察など関係機関との連携や避難訓練を計画し緊急時に備えて練習、実践しています。

2. 教職員自己評価について



教職員の自己評価では、「子ども」を「担当する学級や学年、あるいは全園児」、「教職員」を「自分自身」と設問を読み替えて評価しました。保護者の方に比べて教職員の自己評価はA「大変そう思う」よりB「そう思う」の割合が高くなっています。「保護者に伝えているつもりでも伝わっていないことがあるので、相手にわかるように伝えていき

い」「クラス全体の様子に加えて個々の姿や成長をもっと伝えたい」「自分から積極的に保護者に話しかけたい」と、話しやすい雰囲気を感じ、一人一人の保護者に様子を伝えたいと感じています。これからもいっそう、一人一人の子どもが幼稚園での生活をより楽しむことができるように子どもが安心して、創意工夫して遊べる環境を作り、保護者の方と一緒に子どもを育てるために日々努力を積み重ねていきます。よろしくお願いいたします。

3. 生活習慣についてのアンケートについて

今年度、中京もえぎ幼稚園は、生活習慣の自立、規範意識の育成について取り組んでいます。お子さんの様子について、アンケートを実施しました。自由記述のお子さんの様子についてもたくさん書いていただきありがとうございました。

お子さんの生活習慣についてアンケートに答えていただくで、生活を振り返り、見直していただくきっかけとなつていただければと思います。生活リズムを整えることや、自分のことを自分でできるようになることが、遊びや生活の意欲となります。子どもたちのために家庭と一緒にやっていきたいと思つていますので、よろしくお願いいたします。

学年ごとにあてはまると○をしていただいた方の割合です。

設問	3歳児	4歳児	5歳児
1 自分の荷物は自分で持っている	56%	50%	82%
2 家族や先生など親しい人に挨拶をしている	68	69	74
3 早寝・早起きをしている	66	61	66
4 朝ごはんを毎日食べている	98	94	96
5 衣服の着脱を自分でしている	80	79	96
6 手洗い・うがいをしている	82	88	94
7 お箸を使って自分で食べている	70	71	94
8 幼稚園の持ち物の準備を自分でしている	24	33	60
9 お手伝いをしている	60	65	72
10 歩いて登降園している	32	37	40
11 自分のことができるようになった喜びを子ども自身が感じている	94	79	78
12 体力がついて健康である	82	75	90
13 のびのびと遊んでいる	92	85	90
14 家族に自分の気持ちを言葉で伝えようとしている	94	81	92
15 自信をもって生活している	76	58	70

「1. 5. 7. 8」などの項目で、5歳児になると、○をつけられた方の割合が増えています。お家の方も子どもが「自分で」荷物をもったり、衣服を着脱したり、お箸で食べたり、持ち物を準備することを意識して、生活してくださっていることがわかります。もち

ろん、5歳児になったからといって、急にできるわけではありませんので、3歳児4歳児のときから、それぞれの子どもの実態や興味に合わせて、大人と一緒にすることから、自分でできる喜びへ、自分ですることで自信となるように、かかわっていきたいです。

「11」では、3歳児で○をつけられた方の割合が多くなっています。一学期、初めての幼稚園生活で、幼稚園の中でも自分ですることがたくさんありました。幼稚園でも、靴を履きかえることから、持ち物の始末、水着などの着替えなど生活習慣を身につけることを丁寧にやってきました。わかりやすい表示をつけることや、子どもたちが自分でできる環境を整え、まずは教師と一緒にすることから、子どもたちが「できた」と感じた時に教師も一緒に「できたね」と喜び、自分で自分のことができるようになることで自信を持ってほしいとかかわってきました。少しずつ、自分でできることが増え、いろいろな遊びにも意欲的に楽しむ姿が見られます。

「15」では、4歳児で○をつけられた方の割合が少なくなり、5歳児で再びふえます。自由記述の欄をみると、「年少の時はただただ楽しいばかりだったが、年中になって友だち関係や自分自身の表現の仕方で、とまどいがある、もっと自分の思っていることをストレートに出していけるようになってほしい」、「幼稚園ではしないわがママを家ではする」などといった記述がみられました。幼稚園での生活からも、4歳になると、幼稚園生活にも慣れ、自分の主張も増え、それと同時に、友達のしていることなど、周りも見え始めます。友達との思いの違いに気付いたり、自分との思いの違いに葛藤したりします。その葛藤を乗り越えるで、大きく成長する時期でもあります。様々な姿を見せるとは思いますが、お家の方や教師が支え見守ることで乗り越えていきます。気になることはどうぞおっしゃってくださって一緒に考えていききたいと思います。

「3」の項目では、○がつかないことで、お家の方も反省しておられる方がありました。遊んでいる時でもあくびをしている子がいたり、職員室でごろごろしたりするような子どもも時折みられます。毎月の体重測定時には、保健職員からうがい手洗いの大事さ、健康な生活について子どもたちにわかりやすく手作りの紙芝居などで伝えています。

したい遊びを十分に楽しみ、力を発揮できるように家庭では、「はやね・はやおき・あさごはん」、「朝のトイレ」など、生活リズムを整えていただき、幼稚園では子どもたちが意欲的に遊ぶことができる環境を整え、友達とかかわる中で様々な経験することを支えていききたいと思っています。よろしくおねがいします。



平成26年3月14日

保護者様

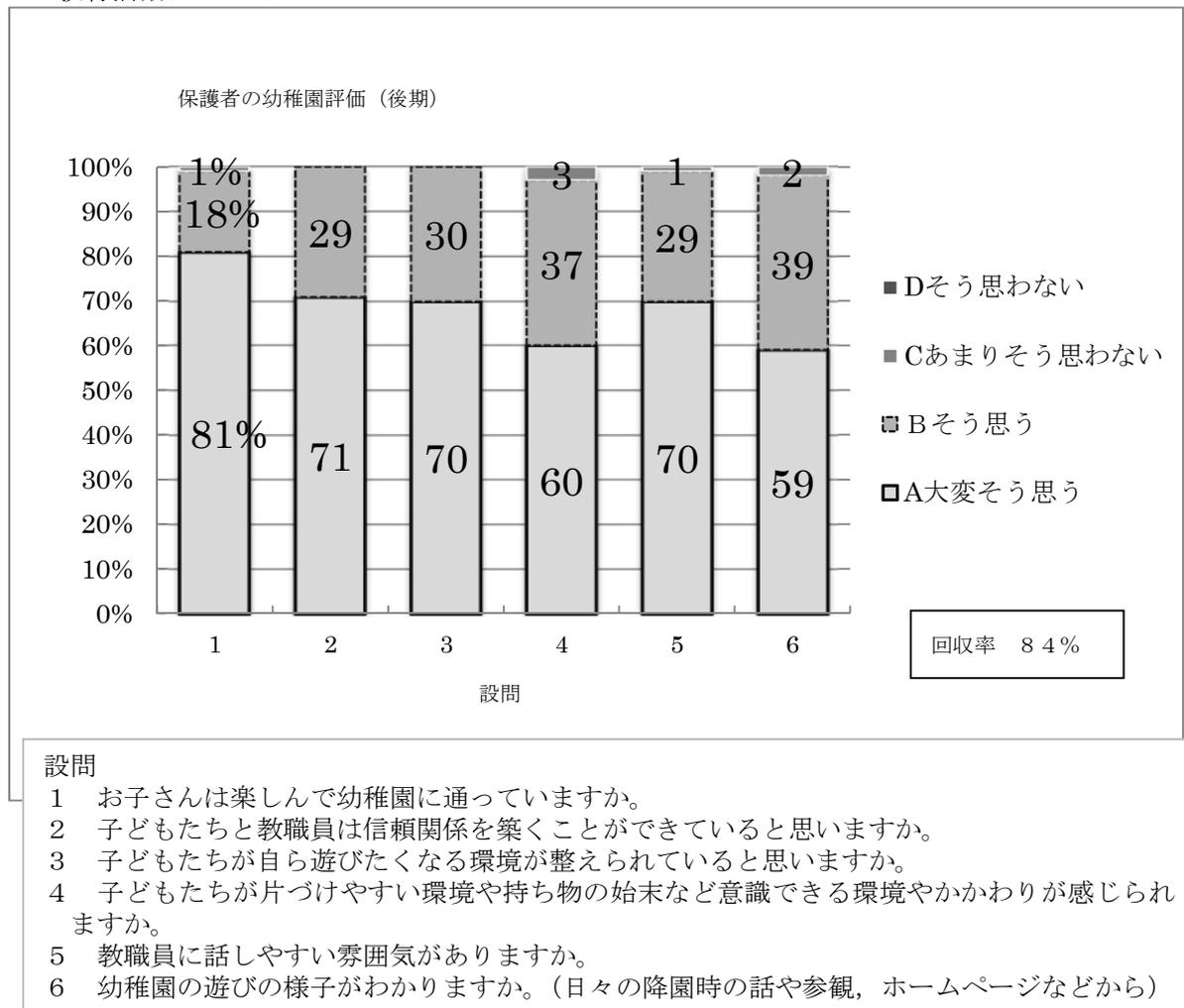
京都市立中京もえぎ幼稚園
園長 永本 多紀子

幼稚園評価の結果について

お別れ遠足を経験し、3・4歳児の子どもたちも5歳児との名残を惜しむように、あちらこちらで、子どもたち同士が自然にかかわりながら楽しむ姿が見られます。

さて、幼稚園教育の評価のお願いをしたところ、大勢の方にご協力をいただきました。ありがとうございました。ここに、集計した結果をお知らせします。あわせて教職員自己評価の結果もお知らせいたします。本年度も大変お世話になりありがとうございました。中京もえぎ幼稚園の子どもたちが心豊かにいきいきと成長するために、これからも保護者の皆様と連携して、全力で頑張りたいと思っています。どうぞ、今後ともよろしく願いいたします。

1. 教育活動について



どの設問についても A「大変そう思う」、B「そう思う」を合わせて肯定的な回答が 95% 以上ありました。幼稚園、教育活動、教職員に対して温かい目で見られていることもわかり、大変うれしく思います。D「そう思わない」を回答された方はどの項目についてもおられませんでした。教職員、様々なご意見を受け止め今後に生かしていきたいと思えます。

以下、記述欄のご意見です。

(1「お子さんは楽しんで幼稚園に通っていますか。」に関して)

○のびのび楽しく過ごせた。温かくみまもっていただきありがとうございました。

○家でも話題の中心が幼稚園になっている

○素のままの自分を受け止めてもらえるような温かい雰囲気の中で、子どもが安心して通っているのが伝わってきます。

○北側、園庭側で先生と挨拶することで、子どもが今日も楽しいようちえんだなと感じる。

○一年を通して先生が登園時に声をかけて下さるのがとても嬉しかったです。

(2「子どもたちと教職員は信頼関係を築くことができていると思いますか。」に関して)

○人と人のつながりを感じることができる幼稚園であった。

○子どもと先生に信頼関係が築けていると思う

○安心して預けることができた。

(3「子どもたちが自ら遊びたくなる環境が整えられていると思いますか。」に関して)

○工作の素材が種類も量もたくさんあり、自由な発想のままに表現できる環境だと思う。

○子どもが自由に遊べる環境があり、また想像する材料も多くあって、子どもたちにとっては本当に素晴らしい園だと感じています。

○パパママティチャーで子どものアイディアが膨らむようなアドバイスの仕方や材料の提案をしている姿をみて子どもが工夫し創り出す遊びを思う存分にできる環境があると感じた。

○竹馬もつくりっぱなし、コマも与えっぱなしではなくて、日々お友達と一緒に取り組めるような環境で子どもの自信にもつながっています。

○年少時に〇〇レンジャーやウルトラマン等の遊びは進めていない、忍者や海賊等の想像力が深まるものを奨めているとのこと、年中年長でもそうであってほしい。

(4「子どもたちが片づけやすい環境や持ち物の始末など意識できる環境やかかわりが感じられますか。」に関して)

○幼稚園では継続して遊べる環境があり、子どもが「続きをして遊ぶよー」と楽しみにしています。

○園庭が整っていない

○物が多く、幼稚園の広さに対して子どもの人数が多いので雑然としている場所がある。

(5「教職員に話しやすい雰囲気がありますか。」6「幼稚園の遊びの様子がわかりますか。」に関して)

○パパママティチャーで子ども同士のやり取りや友だちとの遊びの関わりがよくわかった。大変だけれど、もっと気軽に参加できる雰囲気になればいいと思う。

○お迎えの場所がざわざわしている場所で先生の話が確認できない。

○個人懇談会を年間2回は設定してほしい。生活発表会運動会のアンケートがなくなり残念であった。幼稚園と保護者の気持ちが通じ合うことが大変重要であると思っているので、その機会が減るのは残念です。もえぎの良さが失われないようにと願っています。

○先生と話をする機会がないので、個人懇談会をしてほしい。

○先生が忙しそうにしているので、追いかけてまで話すのは申し訳ないので、個人懇談会をしてほしい。

○ホームページにて他学年のこともよくわかった。

○パソコンを持っていないので先生からの発信が少ない。

○マラソン大会では予定が2度も変わり応援できなかった所以对応を考えてほしい。

○今までにあった行事がなくなり残念に思っています。そのことに園から説明がないことが残念です。理由を教えてもらえたら納得できると思うのですが、何も言ってもらえないと「どうしてかな」と気になってしまいます。年によって行事が違うのは当たり前かもしれませんが、兄弟がいて今までの様子を知っているとどうしても疑問をかんじてしまいます。

(その他のことに関して)

○家庭教育講座の話がよかったので、もっと参加者が増えるように宣伝をすればいい。

○親の負担が大きい。

○PTAも含め、親参加の行事が多すぎる。

○預かり保育は助かるのもっと充実してほしい。

○欠席の時の連絡方法を改善してほしい。

たくさんのご意見をありがとうございました。熱心に考えて下さり、ありがたく思っています。

環境に対して、園庭が整っていない、雑然とした場所があるとのこと指摘をいただきました。幼稚園では遊びを継続して楽しむことを大事にしています。例えばお店ごっこなど、明日も開店するために店を整えておくといったことも、片づけの一つです。また、元の通りに気持ちよく片づける、目で見てわかる札を貼ることで物を対応させて片づけることも大事にしています。大人が思うような整然とすっきりと片づけをすることもあれば、子どもたちが「これで、明日もお店ができる」と自分たちで整えることを大事にする時もあります。子どもたちそれぞれが、それぞれの時期に大事にしたいことを教師がねらい、片づけています。ただ、園庭は、園庭開放があるために遊びの環境を置いておき、それを継続し保育するということが難しい場です。私たちもどのように園庭を整えていくのか、どのように園庭での保育の継続を考えていくのか、試行錯誤している所でもあります。園庭開

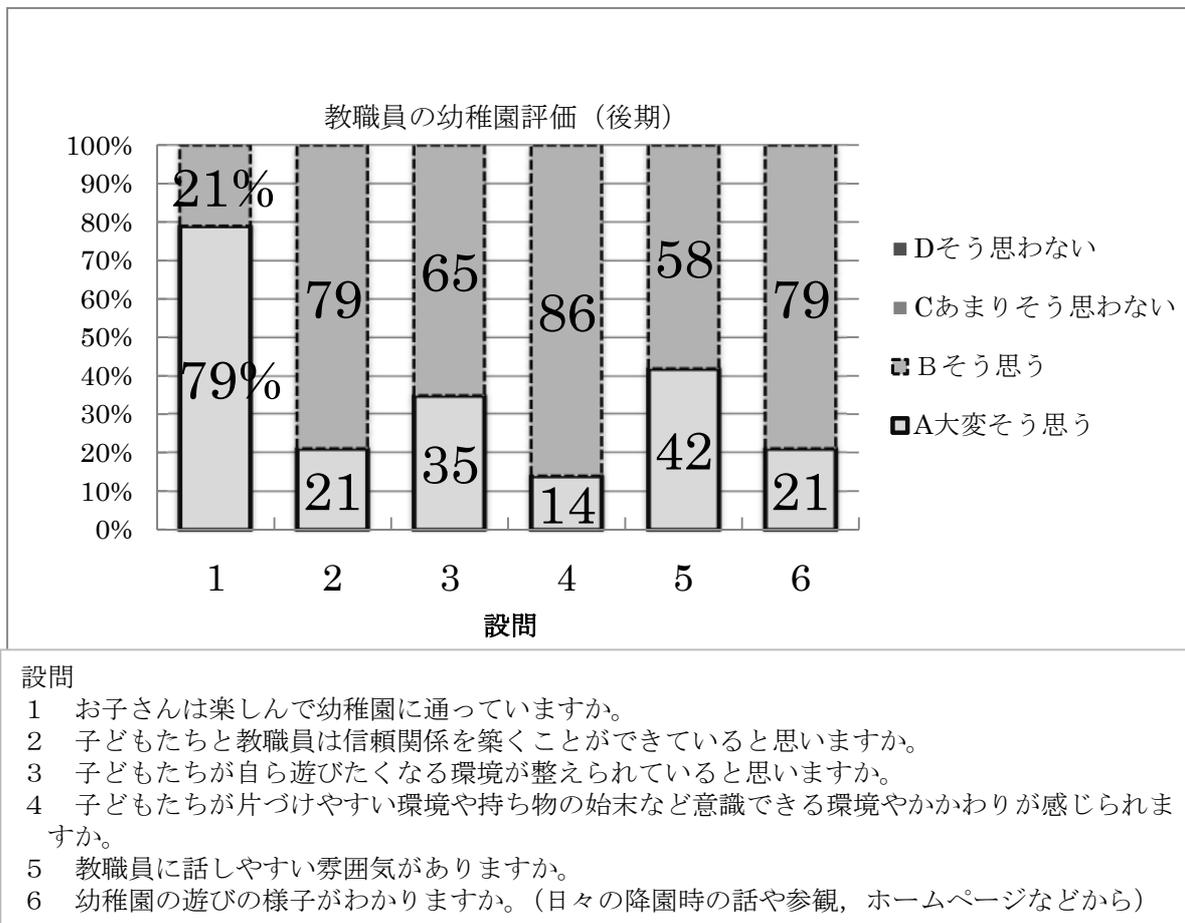
放は保育とは違い、教育課程外の（放課後の遊び）遊びですので、遊びを残しておくことは考えておりません。預かり保育についても同様です。保護者の方も園庭開放後の片づけを子どもと一緒にきちんとしていただくことや午前保育時や他学年の保育中には園庭開放がないことなど、これからもご協力お願いいたします。ありがとうございました。

また、個人懇談会のご希望のご要望をいただきました。今年度は、クラスや学年の子どもたちのその時々の様子や担任の願いを知っていただきたいという思いがあり、学級懇談会を例年より複数回もたせていただきました。個人懇談会のご要望をお聞きし、ご希望の方には個人懇談会をもたせていただきました。幼稚園としても家庭と幼稚園とが、子どものために話し合い、共に考え、悩み、成長を喜ぶといったことは大変大事だと考えております。気になることや思われたことは、「先生、忙しそうだし…」「こんなことを言っても…」と思われずに、どうぞいつでも御声掛けください。私たちも、幼稚園での気になることや、お家の方に伝えたいことなどは声を掛けさせていただいています。場合によってはいつでも個人懇談会のように、時間をとって話を聞いたりしたりさせていただきます。お電話でお伝えいただいても結構です。

行事については、始業式、終業式、PTA 総会などの機会に園長から話をさせていただいたとおり、幼稚園の教育は、毎年、同じ活動をするを大事にしているのではなく、発達に応じたねらいや遊びのもと、その年の子どもたちの様子や遊びの興味、担任と織りなす生活の中でどのような遊びを楽しんでいくかということは、少しずつ、毎年違います。遊びや生活をつくっていく中で、今年はこんなことがしたい、こんな経験が必要、こんなことをしたらより遊びが楽しくなる（H25 年度で言うと、5 歳児のクッキー作りや竹馬オリンピック、4 歳児のポップコーン屋さんや船岡山の園外保育、3 月の大原学舎へのお別れ遠足など）と計画していきます。ですので、年度当初に決定している大きな行事もあれば、保育の計画で様々に変化していくものもあります。ですので、今年度経験したことも来年度はその時々担任と子どもたちとの生活や遊びの流れを大事に計画していきますから、必ずするとは限らないのです。また、中京もえぎ幼稚園は、学校運営協議会（もえぎティンクル）の事業として行っている行事もあります。地域の方のご協力でも子どもたちに豊かな経験をさせていただいています（お茶会体験やうちわ作り、大原学舎への園外保育、預かり保育の読み聞かせボランティアなどもティンクルの事業です）。ご兄弟がおられる方などが、これまでの経験からどうしてかなと、思われるのは当然のことだと思います。私たちも自分たちで伝えたつもりになっていたり、わかってもらえているつもりになっていたりしていたのではないかと反省しています。疑問に思われたことや説明が足りないことはお伝えさせていただきますので、どうぞ気軽にお尋ねください。

他にもさまざまな貴重なご意見をありがとうございました。今後には生かしていくことができるように、教職員で真摯に受け止め、考えていきたいと思っております。ありがとうございました。

2. 教職員自己評価について



教職員の自己評価では、「子ども」を「担当する学級や学年，あるいは全園児」，「教職員」を「自分自身」と設問を読み替えて評価しました。保護者の方に比べて教職員の自己評価は A「大変そう思う」より B「そう思う」の割合が高くなっています。また，C，D についての回答はありませんでした。

他の項目に比べて，「4 子どもたちが片づけやすい環境や持ち物の始末など意識できる環境やかかわりが感じられますか。」の項目において，B の割合が高くなっています。先ほどもお伝えさせていただいた通り，どのようにすれば子どもたちに片づけや持ち物の始末などの基本的な生活習慣が身につくのか，そのための幼稚園での関わりや環境の工夫はどうすればいいのだろうかといことを職員でも話し合い，取り組んできました。今後も丁寧に考えていきたいと思っています。また，教職員も「もっと保護者に伝える努力が必要であった」と感じています。今後も話しやすい雰囲気を心がけ，保護者の方と一緒に子どもを育てるために日々努力を積み重ねていきます。よろしくお願いいたします。

3. お子さんの様子についてのアンケートについて

今年度、中京もえぎ幼稚園は、生活習慣の自立、規範意識の育成について取り組んでいます。お子さんの様子について、アンケートを実施しました。自由記述のお子さんの様子についてもほぼすべての方に書いていただきありがとうございました。一人一人の幼稚園での様子を思い浮かべながら、大事に読ませていただきました。

一年間を振り返り、お子さんの成長を感じていただいたり、今後大事にしたい事を思っていたりし、担任が思っていることを家の方も思っていて下さったり、家庭での様子をお伝えいただいたりして、子どもたちの成長を嬉しく思います。

それぞれのお子さんの成長ですので、集計して割合を出すことの意味はあまりないように思われますが、参考にご覧いただければと思います。

学年ごとにあてはまると○をしていただいた方の割合です。

設問	3歳児	4歳児	5歳児
1 幼稚園生活を楽しんでいる	92%	96%	97%
2 先生や友達など身近な人に親しみを感している	90	100	97
3 様々なことに興味を持っている	86	80	85
4 その子どもなりに自分の力で様々なことをしようと、できることを喜んでいる	86	88	95
5 ものごとをあきらめずに最後までやろうとしている	50	58	58
6 集団生活や社会生活のきまりなどをその子なりに守ろうとしている	76	84	82
7 家族に自分の気持ちを言葉で伝えようとしている	88	80	92
8 家族や友達の話をおことうとする	56	80	70
9 家庭で絵本や物語などに親しんでいる	80	74	75

「5 ものごとをあきらめずに最後までやろうとしている」ことは、子どもたちにとってはとても難しい事だと思います。生活発表会を終え、進級、修了を控えたこの時期に、竹馬や一本歯下駄に挑戦したり、年長児にあこがれて楽器遊びをしたりしている姿をみると、自分の思うとおりにいかないことや、ちょっと難しこと、困難な事にも自ら向かっていこうとする力が育って生きているのを感じます。

幼稚園では友達とのかかわりの中で自分の思うようにならないことがあっても、自ら気持ちを立て直したり、自分で自分の思いを言葉で伝えたりすることを大事にしてきています。そのために教師が仲立ちとなって伝えたり、気持ちを代弁したり、見守り支えたりしています。幼稚園では友達から刺激を受け、自分もやってみようという意欲こそが「5 ものごとをあきらめずに最後までやろうとしていく」力につながっていくのだと思います。

また、「最後までやる」というのと、「やろうとしている」というのは、違います。幼稚園では、やろうとする気持ちを育てたいと思っています。その子どもなりの「やろうとしている」を大事に今後も一人一人の成長を願っています。

1 平成25年度 重点評価項目

・自己発揮しながら人と折り合いをつけ気持ちを調整しようとする力の育成 ・基本的生活習慣を身につけ自立へ向かう基礎の育成

2 1回目評価

2-① 自己評価 【 評価日 : 平成25年10月

評価者・組織(名称) : 保護者 教職員 】

分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1 自己発揮・自己抑制	充実した遊び	研究保育・エピソード研修での考察, 保護者・教職員アンケート結果	幼児が自己充実しながら遊ぶためにはどのような環境や教師のかかわりが大事なのか、子どもの実態を捉えて取り組みを進めてきた。研究保育やエピソード研修から学年やその時期に大事にしたい姿が見えてきているが、発達の視点で分析を深めていくことが課題である。保護者アンケートからも子どもが楽しんで幼稚園で生活していたり、教職員が連携して保育していることに高い評価を得ている。	学年会でのエピソード研修をすすめると共に、学年を超えた全体での園内研修や学年主任会を充実させ、広い視野をもって分析することができるように機会をもつ。教員一人一人が自分の課題をもって研究を進めることができるように話し合いを深めていく。子どもがどのようなことに心を揺らしているのか、その思いをどのように捉えどのように援助していくのか丁寧に考察していく。
	環境構成	研究保育・エピソード研修での考察, 保護者・教職員アンケート結果		
	発達段階に応じた指導	研究保育・エピソード研修での考察		
	教職員の連携	研究保育・エピソード研修での考察, 保護者・教職員アンケート結果		
2 自立心	基本的生活習慣の定着	研究保育・エピソード研修での考察, 保護者・教職員アンケート結果	なぜ基本的生活習慣を身につけることが大事なのか、身につけていくためにはどのような環境や援助が必要なのか探ってきた。基本的生活習慣を大事にすることが意欲や自立の礎になることを確かなものにし、教職員、家庭と共通理解していくことが課題である。保護者アンケートからは3歳児で自分でできる喜びを感じ4歳児では様々に葛藤し5歳児でさらに自信となっていくことが見られた。	幼稚園の集団生活の中で、なぜ基本的生活習慣を大事にしていくのか、教員一人一人が自覚しながら進めることができるように園内の研修などでその意味について深めたい。また、家庭には、それぞれの学年の特徴や葛藤など様々な経験の大事さを学級懇談会などの機会を設け伝えたり、具体的にどのようにしていくかを個別に伝えたりしていく。
	意欲的な遊び・生活	研究保育・エピソード研修での考察, 保護者・教職員アンケート結果		
	環境構成の工夫	研究保育・エピソード研修での考察		
	個に応じたかかわり	研究保育・エピソード研修での考察, 保護者・教職員アンケート結果		
3 連携	保幼小連携の推進	こどもみらい館・保幼小連携プロジェクトの取組状況	保幼小の取組では事前・事後の研修をしっかりと行ったことで、子どもの育ちについて深めることができた。地域の人材や文化を活用して祇園祭、京うちわ作り、お茶会体験など行事に取り入れることができた。その意義を保護者に伝えていくことが必要である。パパママティチャーでは、保育についてわかりやすく伝えることが教員の力量を高めることにもなっている。	こどもみらい館との連携をさらに深め、中間発表に向けて取り組んでいく。学校運営協議会について保護者にわかりやすく伝えていくことが必要である。また、行事についてその意味や子どもにとって何が大切なのか伝える必要がある。パパママティチャーの取組を3歳児にも広げる。保育参観ではなく、保育者としてかかわることや、子どもの育ちについて共有していきたい。
	地域に根差した取組	学校運営協議会を生かした取組状況		
	家庭との連携	パパママティチャーの活用状況、ほっとチャットでの取組		
4 園独自の取組	子育て支援	預かり保育・園庭開放の実施利用状況, 未就園児教育相談の実施状況	預かり保育では、3歳児の特別預かりを始めている。3歳児と4、5歳児の兄弟との降園時間の差をなくし、保護者の負担軽減のために兄弟がいる希望者や就労などの特別事情のある家庭に限っているが、兄弟のいるほとんどの家庭が利用している。ホームページは毎日更新が定着しつつある。保護者は個別にも子どもの様子を知りたいと思ひ、教員も伝えたいと思っている。	3歳児の預かり保育では、どのように過ごすことが子どもにとって負担がないのか、進めながら考えていくと共に環境を整えていきたい。保護者には毎日顔を合わせるので、降園時などの時間をうまく利用したり、毎月の誕生日の保護者が集うほっとチャットなどで、幼稚園教育や家庭教育について発信すると共に保護者自身が視野を広げることができるように取組を進めたい。
	情報発信	学級だより・園だよりの発行・HPの更新状況, 保護者・教職員アンケート結果, ほっとチャットの取組		

2-② 学校関係者評価 【 評価日 : 平成25年9月24日

評価者・組織 : 学校運営協議会 , 学校評議員 (いずれかに○) 】

評価結果	改善に向けた支援策
規範意識について保護者も共に取り組んでいくことも大事であろう。未就園児や幼稚園児から中学生まで一貫して同じ意識をもち家庭でも地域でも幼稚園学校でも取り組んでいくことが大事であろう。小中学校との連携も大事である。登降園時の安全について保護者も意識ができるように地域も幼稚園も一緒に取り組んでいきたい。保護者が幼稚園の取組について満足感をもっていることが感じられる。	小学校と連携し、お互いしていることを伝え合うと共に、互いの研究発表会などに参加するなど教員間でもさらに連携を深めていきたい。子どもたちが豊かな経験ができるように行事などについてプロジェクトへの位置づけを確認したり、行事を精選していくことも今後必要であろう。また、未就園児に対しても家庭の教育の大事さや子育ての知恵などが伝えられる場を設けることができないか、今後検討していきたい。

3 2回目評価

【 評価日 : 平成26年3月4日

評価者・組織(名称) : 教職員・保護者

】

分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1 自己発揮・ 自己抑制	充実した遊び 環境構成 発達段階に応じた指導 教職員の連携	研究保育・エピソード研修での考察、保護者・教職員アンケート結果 研究保育・エピソード研修での考察、保護者・教職員アンケート結果 研究保育・エピソード研修での考察、保護者・教職員アンケート結果 研究保育・エピソード研修での考察、保護者・教職員アンケート結果	どのような材料用具をどの場所に設定するのか、環境図に して考えることにより、子どもの遊びが継続され、充実し た。教職員で共通理解したことと異年齢の子どものわか かりが増えた。年少児が年長児の刺激を受け、遊びに 広がりが見られた。園内研修で幼児期の気持ちを調整す る発達の道筋を捉えた。援助について考察していくことが 課題である。保護者アンケートから子どもが楽しんで幼 稚園で生活していることや子どもが遊びたくなる環境につ いて高い評価を得ている。	学年でのエピソード研修や研究保育から、教師の援 助や指導、環境構成について発達の道筋を捉え、子どもの 自立心自律性について発達の道筋を捉え、共に教育 課程を編成していく、遊びが継続する保育や異年齢の 関わりについて環境や行事、そのねらいや持ち方など を検討し、共通理解する。自分が担任している学年以外 の遊びや生活を知ることができるよう職員会や職員朝 礼の機会を利用する。
	2 自立心	基本的な生活習慣の定着 意欲的な遊び・生活 環境構成の工夫 個に応じたかかわり	研究保育・エピソード研修での考察 研究保育・エピソード研修での考察、保護者・教職員アンケート結果 研究保育・エピソード研修での考察、保護者・教職員アンケート結果 研究保育・エピソード研修での考察、保護者・教職員アンケート結果 研究保育・エピソード研修での考察、保護者・教職員アンケート結果	3歳児では基本的な生活習慣の定着に向けて環境や援 助について考えを深めることができたが、4、5歳児にな ると、教師から自立的にいく部分が大きいが、自ら見通し をもって生活しようとする環境や援助について分析して いく。一人一人の子どもの必要感をもって自分のことは 自分でできるように、個に応じたかかわりをさらに進め、家 庭と連携していく。
3 連携	保幼小連携の推進 地域に根差した取組 家庭との連携	こどもみらい館・保幼小連携プロジェクトの 取組状況、研究発表会でのアンケート結果、 学校運営協議会を生かした取組状況 ハハママテイチャーの活用状況、まっと チャットでの取組	保幼小の取組では実践研究をこどもみらい館で中間発表 を行い、子どもの育ちについて深めることができた。また、 自園の研究発表会に近隣の小中学校の教員に参加しても らうことで、そのアンケートなどからも、幼稚園教育につ いて理解してもらおうきかけとなった。地域の人材や文化を 用いて、自然観察や親子お茶会など行事に取り入れること ができた。ハハママテイチャーでは、参加希望者に偏りが 見られるので、今後持ち方を検討していく。	こどもみらい館との連携をさらに深め、二年目に向けて 取り組んでいく。自園での研究について小中学校に広く 発信することで、幼稚園教育についての理解が深まるよ うに働きかけたい。学校運営協議会について保護者に わかりやすく伝えていくことやその意味を伝える必要があ る。ハハママテイチャーや保育参観、行事の参加など、 様々な家庭との連携を検討していく。
	4 園独自の取組	預かり保育・園庭開放の実施利用状況、未 就園園教育相談の現状状況 学級より園での養育・HPの更新状況、保護者・教 職員アンケート結果、まっとチャットの取組	預かり保育では、3歳児の特別預かりを始め、多くの利用 者があり、保護者の負担軽減や就労支援になっている。 ホームページは毎日更新が定着しつつある。今年度は学 級懇談会をすることで遊びや生活の様子を伝えてきたが、 個人懇談会の要望があり、希望者のみではあったが、行っ た。今後も柔軟に対応していきたい。	保護者の就労支援や負担軽減、子育て支援の一つとし て預かり保育を充実させていく。保護者が教職員に話し かけやすい雰囲気をつくることを大事にする。共に、ど の保護者もが、話ができるように個人懇談会の機会も 含めて充実させていく。

3-2 学校関係者評価 【 評価日 : 3月14日 評価者・組織 : 学校運営協議会、 学校評議員 (いずれかにO) 】

評価結果
<p>個人懇談会の要望については担任の先生に気軽に話しかけられる保護者もいれば、自分からは話しかけにくい保護者の方もおられ る。様々な思いの保護者など様々だが、話す機会があった方がよいので、個人懇談会の要望があつたのたと思われ。 子どもを取り巻く状況が多様になっていく中で、アレルギ―や衛生面など配慮しないといけないことが増えている。しかし、そのことが、 子どもの活動を制限し、幼児期に大切にしたい体験が不足していくので、どのようにしていくのか今後さらに検討が必要である。 就労支援や子育て支援における預かり保育については今後より幼稚園教育においても大事になってくる。その中でも預かり保育の質 を確保していくことも重要である。</p> <p>改善に向けた支援策 今後も学校運営協議会と幼稚園とが、しっかりと思いを共有し、様々な子どもたち にとって感動できる経験を計画していくことを目指したい。 預かり保育についても、地域の人材を活用するなど、学校運営協議会としても協 力していきたい。</p>

4 総括・次年度の課題

自己発揮・自己抑制・自立心については教員自身が子どもの発達の道筋をエピソードや研究保育から捉えることができ、研究発表会の参加者からも一定の評価をいただいた。今後もさらに幼稚園教育の広い理解の
ために援助や環境について可視化し、発信していきたい。
子育て支援や情報発信についてどのように進めていくのか、家庭、地域との連携をより深めながら具体的に取り組みを進めていきたい。